

北方学園構想に関する意見書(案)

平成31年2月

北方町学校構想検討委員会

目 次

はじめに

序 章 北方町の教育環境 現状と課題	3
第1章 北方町の学校体制のあり方について	6
第2章 学区の設定と配慮すべき事項について	12
第3章 北方学園の目指すすがたについて	15
第4章 学校施設のあり方について	22
第5章 学園構想の今後の進め方について	26
参考資料	
北方町学校構想検討委員会委員名簿	29
アンケート調査の結果と概要	30
検討委員会の協議経過と概要	36
広報きたがた 北方学園構想コーナー	78
今後のスケジュール(案)	87

《はじめに》

北方町の小学校3校と中学校1校を、小中一貫教育9年制の義務教育学校2校に再編し、2023年度開校を目指す「北方学園構想」の意見書をようやくまとめることができました。この間、学校構想検討委員会では、委員や教育委員会事務局の皆さんと活発な議論を繰り広げました。これからの社会の在り方を想定し、北方町という地域で育てたい共生社会を創造するたくましい子どもの姿、9年間という年齢幅の広さのなかで育つ子ども像への期待、それらを支える教師や地域住民の担うべき役割や学校環境などについて語り合ってきました。詳しい経緯は、この意見書の後半に参考資料として示してあります。

義務教育学校は、平成27年の学校教育法改正によって制度的に位置付けられました。すでに全国にわたって、開校されているもの、開校に向けて協議検討中のものが多数みられます。その背景に、地域や行政の様々な事情や願いがあります。過疎化や少子化に対して義務教育学校という形で小中統合を選択したものの、学校運営の効率化の推進、子どもの成長発達の加速化に対応して義務教育6・3制の区分をはずし9年間を見通して子どもを育てる発想が必要だとする考え方などが挙げられるでしょう。もちろんそれらは重なり合ってきます。

こうしたなかで、北方町の学校構想の特質はどこにあるのでしょうか。委員会の議論を通して実感したのは、義務教育9年間の成長発達を学校と地域の協働で支えていくことが必要であり、この考え方の実現に正面から向き合って新たなスタイルの学校を学校と地域と行政で協力して創っていかうという意識の共有です。しかも、北方町の場合、小中の統合だけでなく、一つの中学校が二つに分かれ、町全体として同時に二つの義務教育学校が創立されることです。二つに分かれることへの懸念も、議論のなかで出されました。委員会ではこうした点にも配慮して議論を重ね、次のような展開が今後なされていくことを願っています。意見書に書かれた内容を規範として、同じ二つの学校を具体化するのではなく、これまでの学校の伝統や地域の状況と照らし合わせ、互いに切磋琢磨する良きライバルの関係において、独自の学校文化を発展させてほしいということです。このような展開こそ、北方町を支える魅力となっていくはずです。

今後の予定として、ハード面となる学校施設を作った後から、ソフト面となる中身の学校目標や子ども像や教師像を考えていけばよいという展開にならないようにしてください。今がまさしく、両面にわたる学校創りのスタートとなるのです。この意見書が、北方町の目指す子ども像、小学校でもなく中学校でもなく小中一貫教育に相応しい教師像や学校施設、そして学校創りに参画する地域の在り方などをめぐって、町内や各学校で夢のある対話を重ね、合意形成を図り、具体的なビジョンを作成する上での手がかりとなることを願っています。

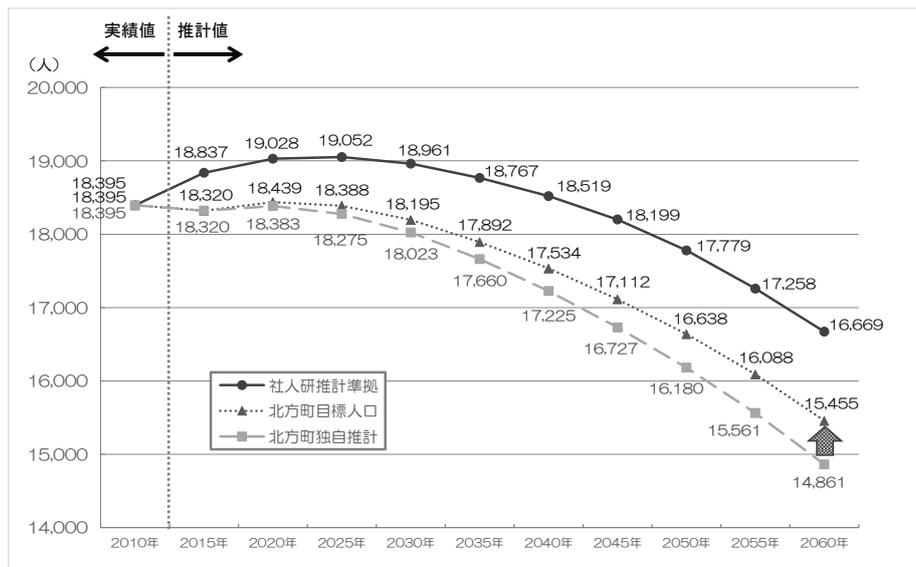
北方町学校構想検討委員会
座長 石川 英志

序章 北方町の教育環境 現状と課題

北方学園構想を検討するにあたり、まずは町の現況について考察します。

第1節 北方町の人口及び児童生徒数の推移と今後の見込み

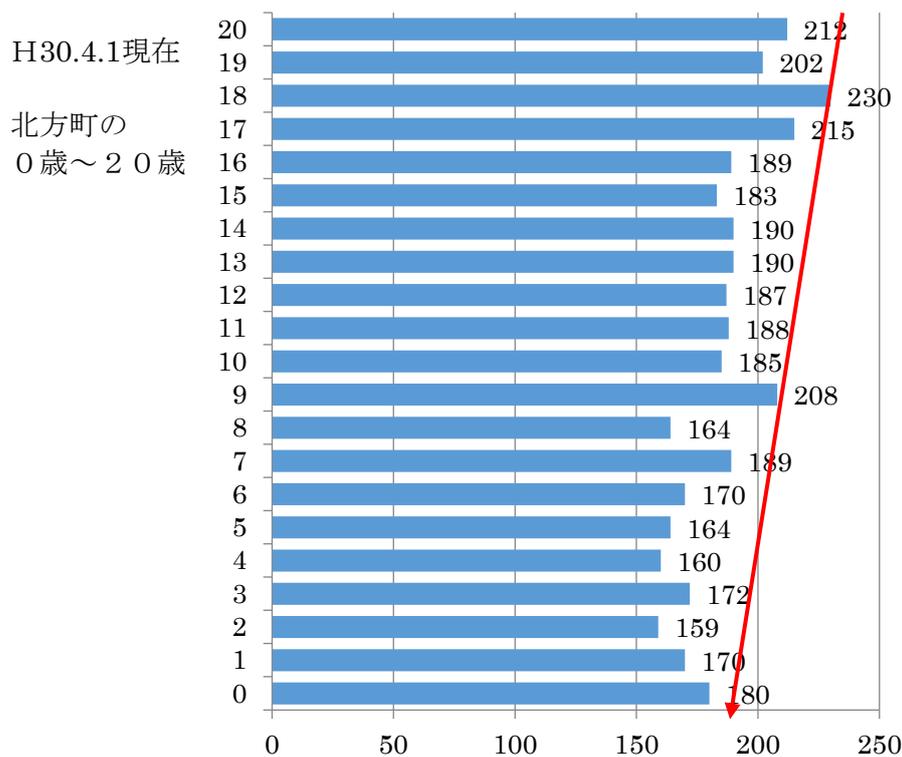
我が国の人口は2008年を境に人口減少局面に入り、人口減少時代に入っています。今後、2050年には9,700万人、2100年には、5,000万人を割り込むと推計されており、同様に岐阜県においても、2040年に158万人、2100年には137万人に減少すると予測されています。平成27年10月に策定した「北方町人口ビジョン」では、本町においては、人口維持傾向はしばらく続くものと見込まれますが、2020年をピークに減少に転じると予測しています。まず、社人研（国立社会保障・人口問題研究所）による人口推計では、2010年の18,395人から2060年では、1,726人減の16,669人と予測されています。しかしながら、この推計では2015年に18,837人が推計人口とされており、すでに現在の人口と乖離してきています。そのため、平成27年8月31日現在の人口18,319人を考慮するとともに、2015年の人口を18,320人に置き換えてより現状に近い状態で社人研と同じ方法で町独自推計を行いました。この町独自推計では2040年の人口は17,225人、2060年の人口は14,861人という結果になっています。



図：北方町の長期的な人口の見通し（北方町人口ビジョン より）

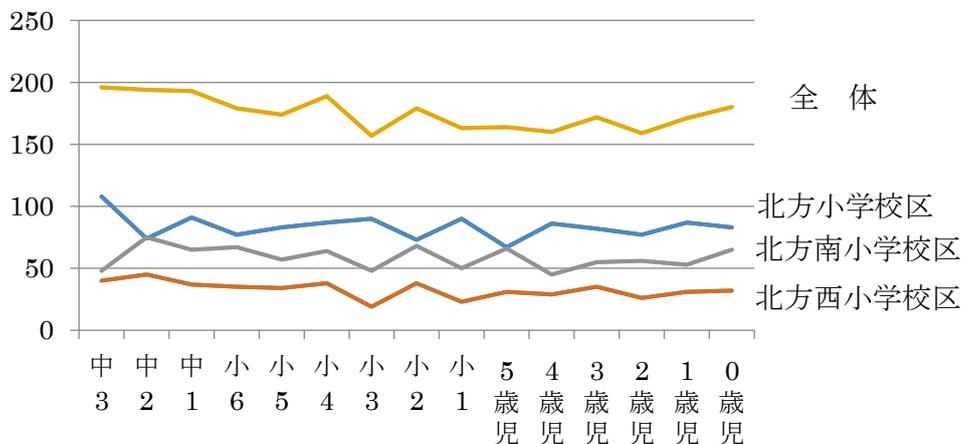
このような現状の中、町全体の児童生徒数の推移を予測すると、年度によって多少の増減はあるものの全体的には緩やかに減少していくものと考えられます。今後、親の世代となる20歳から40歳までの人口の急な増加も考えにくいいため、この傾向はしばらく続くと思われる。

町全体の児童生徒の予測



校区ごとの将来予測

□平成30年4月1日現在（増減しながらも全体的には減少が予想される。）



第 2 節 学校現場における現状と課題

北方町の学校体制や教育関連施設は、いわゆる団塊の世代が子育ての時期を迎えた時期（40年から30年前頃）に児童・生徒数がピークとなり、その受け入れのため北方西小学校の建設を初め、各教育施設を順次整備してきました。そのころに建設された施設は建築後30年から40年が経過し老朽化が進むなか、団塊ジュニア世代の晩婚化や社会環境の変化などにより子どもの数も減っており、様々な影響が出てきています。

具体的な例では、老朽化に伴う北方小校舎の水漏れや外壁の剥離、西小体育館の床面剥がれ、給食調理場機器の故障などがあげられます。少子化に伴う課題としては西小の単学級化や空き教室の増加などがあげられます。また、南小学校区の中学校への通学距離が長いという課題や、町内に中学校が1校しかないため、教員が異動する際には他市町へ行かざるを得ず、町の実情に詳しい教員が定着できないという問題もあります。

なお、全国的な傾向と同様に、現行の小中学校の仕組みでは、中学生になると不登校や学習意欲の低下など、生徒指導上の問題が増加する傾向にあります。北方町でも、昨年度不登校については小学校全体で5人に対し、中学校では18人と増加しています。これは、児童生徒の発達段階など、多様な要因が考えられますが、進学の際の環境の急激な変化もその要因の一つです。特に、発達障がいのある児童生徒は、環境の急激な変化に適応しにくく、十分に個性を伸ばしていけないことも少なくありません。

さらに、現状では、教職員の一人ひとりの子どもに対する理解や指導が小学校6年生で一度途切れてしまうことや、子どもにとっては、中学校に進学した際に、自分のことをよくわかってきている先生が一人もいない状況で新たな学校生活をスタートしなくてはならないこととなります。教員にとっても、現状では小学校は6年間で送り出したら終わり、または中学校は3年間だけの責任という学校体制になっており、小中すべての教員が責任を持って義務教育期間の子どもの成長を見守れるような体制にはなっていません。今後の少子高齢化など、めまぐるしく変化する社会をたくましく生き抜いていく児童生徒を義務教育段階で育てていくことは、町の責務です。そのためには、これまで以上に一人ひとりの児童生徒を深く理解し、個に応じた指導ができる体制についても、検討していくことが大切です。また、これからの時代に合った外国語教育、ICT教育などに積極的に取り組み成果が上げられる教育の仕組みを考えていく必要があります。

こうした北方町の教育力の向上の根幹は、何と言っても学校の教員の指導力にかかっていると言っても過言ではありません。北方町の学校構想を検討していく視点として、教員の資質能力の向上を図り、指導体制を強化することも重要です。

第1章 北方町の学校体制のあり方について

検討委員会としての意見

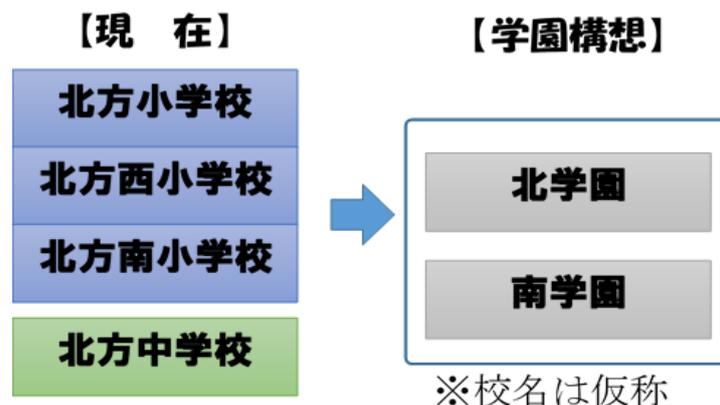
小中一貫教育に前向きに取り組む義務教育学校2校体制への再編については、9年間を通して子どもたちへの理解を深め、長期的な視野で能力を伸ばしていくことができ、学力向上や生徒指導体制の強化の観点から成果が期待できる。この特色ある教育の推進は、北方町の魅力づくりにもつながる。さらに、今後、修繕を続けながら4校を維持管理していくことを考えると、2校に集約することは、学校運営の効率化となり、推進していくべき構想である。

今後、この体制のメリットを膨らませ、デメリットを緩和できるように教員等が主体となって、検討を重ねると共に、町民に丁寧に説明し理解を得ながら推進していくことが必要である。

第1節 義務教育学校2校体制の導入について

検討委員会で提案・検討された内容

前章では、北方町の教育環境について考察しました。この現状を解決するためには、現在の小学校3校と中学校1校を小中一貫の義務教育学校2校に再編することが効果的だと思います。また、給食調理場や幼稚園・保育園の体制なども合わせて検討します。それにより、教育力の向上、施設・設備の効率的な利用などが図られると考えます。



教育力向上

- ・中1ギャップ(不登校・問題行動の急増)の緩和
- ・教科担任制による専門的指導の拡充による学力向上
- ・一つの教職員組織になることによる校務の削減
- ・一貫した生徒指導による生徒の落ち着いた学校生活
- ・北方町全体で見ると、教員数の増加が期待できる

施設効率

- ・4校運営から2校運営による財政的効率の向上
- ・南小、北中の校舎の効率的活用(施設老朽化対策)
- ・西小の小規模化、学年単学級化に対応
- ・特別教室などの共同利用による施設の効率化の向上

第2節 義務教育学校制度の概要

次に、義務教育学校制度の概要をまとめます。義務教育学校は平成27年6月の学校教育法第1条の一部改正により位置づけられました。条文では、「この法律で、学校とは、幼稚園、小学校、中学校、**義務教育学校**、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。」とされています。また、学校教育法第49条では義務教育学校に関する様々な規定が定められています。

・義務教育学校の目的(第49条の2)

義務教育学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことを目的とする。

・義務教育学校の修業年数(第49条の4)

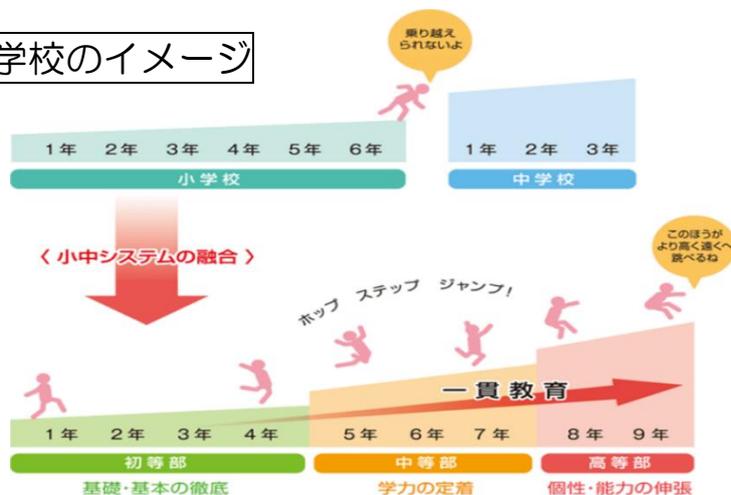
義務教育学校の修業年数は、9年とする。

・義務教育学校の教育課程(第49条の7)

義務教育学校の目的・目標は文部科学大臣が定める。

⇒学習指導要領に示された内容項目を網羅すること、各教科等の系統性・体系性に配慮すること、児童生徒の負担が過重にならないようにすること等を前提に、小中一貫の9年間を見通した教育課程を構築することができる。

義務教育学校のイメージ



(京都教育大学附属京都小中学校 研究資料より)

第3節 義務教育学校の利点

義務教育学校制度には、様々な利点（メリット）があると考えられます。先行事例を見ると、義務教育学校制度を実際に導入するいきさつはそれぞれ独自の事情がありますが、以下に各義務教育学校において共通した利点と思われる事項を列記します。

義務教育学校の利点

☆長期的な視野で、ゆとりを持って教育に取り組むことができる。

○安心して中1に進級

中学校進学時に不登校などの問題行動が増える傾向にあること（いわゆる中1ギャップ）の有効な対応策となる。例えば、中1に進級するときに、同じ学校に自分のことを分かっている先生が何人もいるため、中1で途切れることなく連続してよさを発揮できる。

○小学校からの専門的な授業

小学校の高学年から徐々に教科担任制を行うことが可能となる。特に音楽や図工は歌声や作品にその成果が如実に表れる。また、学習計画も9年間で立てるため、連続したスムーズな学習が期待できる。

○落ち着いた学校生活

小中一貫した生活ルール、異年齢活動の充実、小中の生徒指導連携の強化、9年間を通した子ども理解などにより、より落ち着いた学校生活が期待できる。

○特色ある教育の実施

9年間の一貫した教育の中で、平和学習や英語教育など、特色ある教育を実施することができる。町としての魅力の高まりが期待できる。

○豊かな関わり

子ども達は、これまでよりも幅広い学年とふれあい、さまざまな教員と関わりすることができる。

○教員の指導力向上

教員にとっては、幅広い年齢の子どもとの関わりを通じて、指導方法や子ども理解に新たな気付きが生まれることが期待できる。

第4節 義務教育学校の先行事例について

平成30年4月現在、全国では70校ほどの義務教育学校が開校しています。また、開校にむけて協議・調整中の事例も多数存在しています。ここでは先行事例としてすでに開校しているいくつかの学校の特徴的な事例を紹介します。

○羽島市 桑原学園

(平成29年4月開校 児童・生徒数 171人)

白川郷学園と並び、岐阜県初の義務教育学校として開校。低学年から段階的に教科担任制を導入している。校章は開校後に選定した。

○白川村 白川郷学園

(平成29年4月開校 児童・生徒数 116人)

5年生から教科担任制を導入。小中同一日課を実施している。ふるさと学習や英語教育など特色ある教育を進めている。

○品川区 豊葉の杜学園

(平成28年4月開校 児童・生徒数 920人)

隣接する幼稚園・保育園と連携して学校を運営している。5年生から部活動に参加しているが、教科担任制は5年生からの段階的な実施としている。4年かけて工事を順に進めることにより、子ども達への影響を減らす配慮をした。

○成田市 下総みどり学園

(平成29年4月開校 児童・生徒数 440人)

5年生から段階的に教科担任制を実施。1～9年生までの縦割り班や全校遠足など、異学年交流を活発に行っている。広い学区のため、6台のスクールバスを運行している。

○福井市 福井大学教育学部附属義務教育学校

(平成29年4月開校 児童・生徒数 740人)

5年生から教科担任制を導入。特に英語、音楽、造形・美術、家庭科は後期課程の教員が縦持ちしている。児童会・生徒会には自治的に企画・運営させるなど、子どもたちの自主性を重んじている。

第5節 その他の関連施設について

学校施設と同様に、その他の教育関連施設でも老朽化による影響が出てきています。特に給食調理場については、施設・設備の老朽化やそれに伴う衛生面での心配も出てきています。そのため、今回の学園構想にも関連して施設の建て替えが必要であると思われます。また、幼稚園・保育園に関しては少子化の影響を大きく受けることや施設の老朽化を考慮し、既存施設の整理・統合を前提として幼保連携の子ども園を開園することが効率的であると思われます。

なお、施設の合理化による経費の削減見込み額は、仮に北方西小学校及び中保育園の施設を廃止した場合は、年間の管理運営費で1億円程度(平成30年度予算ベース)、将来にわたる施設の維持負担費用で累計37億円程度(北方町公共施設等総合管理計画より)が見込まれます。

※検討委員会での意見及び協議内容

・9年間を見通して生徒指導ができることはとてもいいことであると思った。特に低学年から9年生まで指導できることはいい。特色のある教育実施について、保護者の方が期待している。学園になってその期待に対する情報を共有しながら期待にこたえていくことが大切であると思う。

・教科担任制について、羽島市の桑原学園の教職員の話では、今まで見えなかったつながりが見えるようになり、中学校で大切になる部分を小学校の段階で意識しながら指導できるようになったため、自分の指導力があがったとの感想を聞いています。専門の先生に教えてもらえることは、子どもにとってのメリットもあるが教員側の指導力向上にも役立ち期待が持てるものです。

・たとえば、中学校の数学の先生は中学校のことばかりに目を向けていたけれども、小学校の子どもがどんなつまづきをしているのか、ということを考えることも大切です。この子が前向きに数学について学んでいけるためにどうしたらいいのかということで、一度小学校の教科書に戻ってそれを元にして中学校の教育を考えてみる。また、小学校のころ算数が苦手だった子どもについて、小学校の先生と相談して考えていくということも効果大です。こういったことが今後の北方町ではできるのではないかと思います。

・住宅を探している方の意見で、義務教育学校に期待して不動産会社の方が北方町を勧めているということを伺っている。

・地域住民は大体この制度については理解していると判断している。先生同士が勉強会をしてお互いが成長できる環境づくりをお願いしたい。今回学園になることでそれが実現できると思っている。

・地域の中でも話し合いが持たれるということは大事だと思うので、学園構想が始まる前から小中の先生が連携してそれが見えてればもっと発信しやすくなると思う。

・(アンケートにおいて)学園構想に対する反対意見はなかったのか。

⇒反対意見は全体の数パーセント程度でした。詳細が分からず不安だという意見は散見されたが、はっきり反対という意見はほとんどありませんでした。

・(アンケートにおいて)いじめのことは非常に関心が高かったです。9年間いじめられ続けるのではないかと心配する意見もありました。義務教育学校の根本は、小中学校の先生が連携して児童・生徒一人ひとりに対する理解を深めることです。中学校に進級するときに全く知らない先生ばかりではなくて自分を知っている先生がいたり、教科担任制にしても学習面のことだけではなく、一人の担任以外に大勢の教員が一つのクラスに入るので複数の視点からいじめの問題も発見しやすいということがあります。小中連携の根本は安心して子どもが学べることなので、義務教育学校になることでいじめをなくせる体制が強化できると思います。

※検討委員会での意見及び協議内容

- ・「接続期をつくる」というテーマでお茶の水女子大学付属幼・小・中学校においてどのような学校を創るべきかという議論がされています。小中学校をいかにスムーズにつなげていくか、ということが今まで議論されてきたが、それだけではだめで、中学校生活をゆったりとスタートできる配慮をする「なめらかな接続」、これが大変大事だとされています。しかし、そのなめらかな接続だけではなくて、中学校ではステップアップしたという充実感を感じられるような段階も大事だということです。段差をギャップとして考えるのではなく、お互い支えあいながらジャンプできるような適切な段差が必要である。抽象的かもしれませんがそのようなことを意識すべきです。
- ・開校時に中学3年生になる生徒が今まで一緒に生活した仲間と離れてそれぞれの学校で学ぶことになる。育ちの中で大事な多感なその時期に分かれて新しい学校生活を送ることはなかなか難しいことがあるかもしれない。スムーズに新しいスタートを切れるような仕組み等を考えなければならない。
- ・校区の問題、これはいろいろと課題になってくるのではないかと考えている。
- ・北と南で児童生徒数のバランスが悪いのではないか。
- ・大きな経費が伴うので、財源問題を十分に検討していく必要がある。
- ・施設改修工事の際に仮設校舎(プレハブ校舎)を使用する際は教育環境の配慮を十分に行う必要がある。
- ・今後の町づくりや都市計画ということも視野に入れていかなければならない。
- ・授業の日程を考えると実際に今の施設で授業が組めるのか。特別教室の設備は中学校と小学校では大きな違いがあるので机の高さなども踏まえて議論する必要がある。
- ・既に義務教育学校を始められている学校で、どのようなことに配慮したかなどの先進的な事例も含めて調査し、参考資料がいただきたい。
- ・義務教育学校を開校するにあたり、この5年間で小学校、中学校両方の免許を持った教員を養成する必要がある。
- ・この会を進めていく上で情報を保護者、住民の方にも上手く出せる仕組みが必要である。そうすることでこの会がスムーズに行くのではないか。
- ・教職員の中にも、情報がなく不安な声もある。不安が解消できるよう情報共有を図って進めていきたい。
- ・教職員が働きやすい環境を作っていただきたい。
- ・給食調理場は施設の老朽化が進み、調理員の労働環境も良くない。早急に対応をする必要があると思う。
- ・幼稚園と保育園の連携に関して、より良い方式を検討していかなければならない。
- ・北学園においては、幼保小中の連携も視野に入れて順次協議を進めるべき。
- ・在学中の子どもへの影響を考え、なるべく仮設校舎を使わない工事計画を立てて欲しい。

第2章 学校区の設定と配慮すべき事項について

検討委員会としての意見

北学園と南学園の児童生徒数が同数程度になるとよいが、機械的に人数を揃えるより、地域との関わりやこれまでの学校の伝統を引き継いで学校区を考えていくことが大切である。さらに、北学園と南学園の施設の規模のことも考えると、現在の北方小学校区と北方西小学校区が一緒になって北学園区、北方南小学校区が南学園区となることが望ましい。

ただし、通学距離や交通安全上のことも考慮し、選択のできる区域を設けることも検討する必要がある。

第1節 学校区の設定について

現在、北方町には3小学校区がありますが、義務教育学校2校に再編するにあたって、まずは学校区の設定をどうすべきかを決めなくてはなりません。その際に配慮すべきことは、まず1点目は既存施設を活用するため、北学園と南学園は学校の敷地面積に差がある点です。たとえば2校の児童・生徒数を同規模にしようとする、南学園においては施設面で不足が生じます。2点目はこれまでの組織（自治会、PTA、子ども会）との調整です。例えば、今まで同一学校区だった区域を分割して新しい学校区を設定することになると、PTAなどこれまでの組織の分離・統合をどのようにすべきかという問題があります。また、そもそも学校と地元住民との連携を考えると、今の自治会区域を分断するような学校区設定は望ましくありません。3点目は学校文化の継承という点です。北方学園は新しい学校として開校しますが、これまでの小中学校が築いてきた歴史や伝統は引きついでいかななくてはなりません。そのためにもこれまでの学校区は大切にすべきです。以上のような状況を踏まえて、学校区については、北方小学校区及び北方西小学校区を北学園の校区、北方南小学校区を南学園校区とすることが望ましいと思われます。

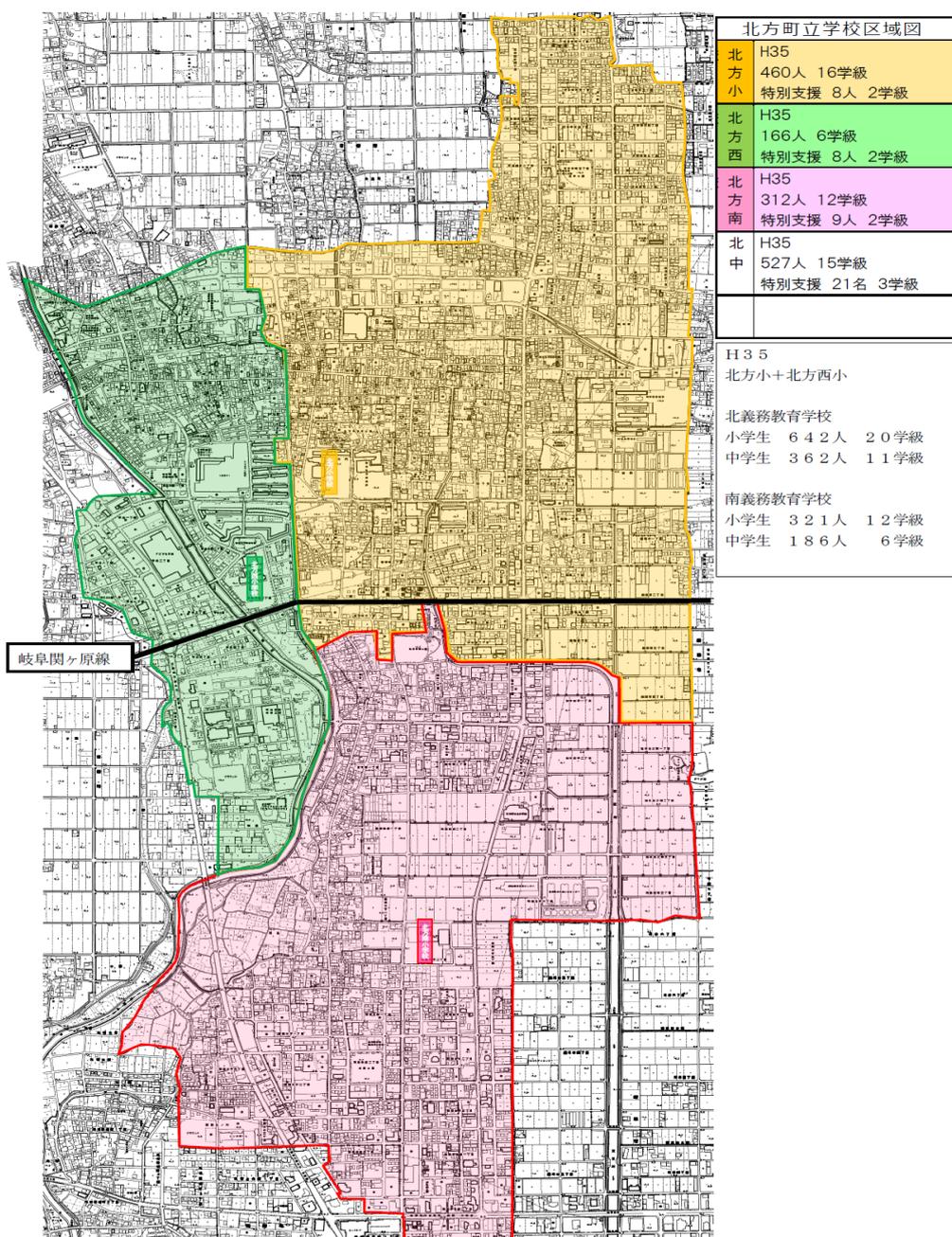
第2節 考慮すべき事項

なお、学校区の設定に当たって考慮すべき事項としては、開校の際に北方中学校に在学中の生徒が北学園と南学園に分れることに対する配慮です。対策としては学校の選択制度の導入などが考えられますが、制度を導入する際には、開校時のみの特例措置とするのか、学校選択できる地域を限定するのか、部活動の関

係やいじめがあった場合など相応な理由があった場合のみに認めるのかなど、様々な事情を総合的に判断しなくてはなりません。検討委員会としては学校選択制度の導入に関する可否の判断は行いませんが、今後開校までに慎重に協議して決定されることが望ましいです。

(参考)現在の小学校区と北方学園開校時の児童・生徒数の見込み

2023年の開校時には、旧北方小の児童は460人、旧北方西小の児童は166人、旧北方南小の児童は312人、旧北方中の生徒は527人と推計されます。仮に北学園の学校区を旧北方小+旧北方西小、南学園を旧北方南小とした場合、北学園の児童生徒数は31学級1004人、南学園は18学級507人となる見込みです。



※検討委員会での意見及び協議内容

- ・人数のことは一見大事に見えるが、そのことに引っ張られて機械的に学校区を割ってしまうのは良くないと思う。それよりも大事にしたいのは今まで積み上げてきたものや、これから積み上げていくものをどうしていくのかということで、今までの校区という枠組みは大事にしていきたいと思う。
- ・北小と西小が北学園、南小が南学園とする案はメリットが多いと思う。子どもたちは転校しなくても良いし、子どもたちを見守っていただける地域の方がそのままということは非常に安心につながるのではないかなと思う。南学園については9年間で南学園の文化を高めていける目標を持った指導が必要となってくると思う。
- ・校区の選定は、北方西小学校全体を北学園にするのか、あるいは一部を南学園にするのか。そこで地域が生徒も親も悩むところである。基本的に北方西小学校の生徒は全員北学園へということになると地域がもめることがないと思う。
- ・なるべくなら南北で人数がそろっていたほうが良いとは思いますが、義務教育学校に限らず小中学校は地域に根ざした学校なので近くの学校であることが大切である。また、地元の自治会とのかかわりが大切であったり、今の学校の良い伝統を北方学園に引き継ぐことも大切である。物理的にも南学園にたくさんの校舎を建てるのは難しいこともあるので、自然に考えていくと基本は北方小学校と北方西小学校が一緒になって北学園、南小学校が南学園といった方が落ち着くのではないかなと思う。
- ・北方小学校と北方西小学校が一緒になって北学園は1000名、南学園では500名程度とのことだが、1000名にもなると学校運営が大変になるのではないかな。そのあたりのバランスの問題を考えて学校区を考えなければならぬのではないかな。保護者は学校区を変えないでという意見が多いが、先生への負担が増えないかといった心配もある。
⇒1000名という数字は小学校と中学校併せての数字であり、義務教育学校を、小学校の単位で考えると600～700名程度、中学校でいうと350名程度の学校になると思います。各学年で考えると3クラスが基本となり少人数で4クラスとなり、北学園全体では27クラス程度となる見込みです。1000名規模の小学校ならばマンモス校になりますが、県が示している学校の適正規模の基準では義務教育学校の場合は、小中併せて18～27学級が適正規模として示されています。また、南学園も18クラス程度と見込んでおり、適正規模の中に含まれています。
⇒教員の負担に関しては、教職員定数として町全体では小学校2校分と中学校2校分の教員が配分されます。小学校、中学校それぞれの算定基準に基づいて配置されますので現状よりも教員増が見込まれます。また指導体制としては、校長は1人ですが副校長や教頭が複数配置されますので充実した体制としてやっていけると思います。
- ・中学校に入学した子どもが分かれてしまうということには配慮が必要かなと思う。部活動のこともあるので、学校選択制度という中で部活動ということも選択肢に入れるという議論の余地はあると思う。移行期の措置は必要だが、移行しきった後は地域の学校として安定していくのではないかなと考えている。

第3章 北方学園の目指すすがたについて

検討委員会としての意見

北学園と南学園は、公立の義務教育を行う学校であることから、最も大切なことは、だれもが安心して学び合える学園にすることである。9年間安心して学び合える環境の中で、一人ひとりの能力を十分に伸ばすことを柱にすべきである。また、義務教育学校のよさを生かし、教科担任制の拡充や異学年交流の充実などを図り、「安全・安心」「深い学び」「誇り・自信」をキーワードに、9年間を通して「たくましい北方の子」を育てていくことをめざしていきたい。

義務教育学校制度の概要とその利点などについて、一般的に考えられる点や北方学園の学校体制などを整理してきましたが、ここでは義務教育学校「北方学園」としての目指していくべきすがたなどについて考えます。

第1節 北方学園の教育方針について

理想的な学校を目指すにあたり、まず優先しなければならないことは、安全と安心です。大前提として、安心して学校生活を過ごせる環境がなければ、子どもたちの健やかな成長は望めません。落ち着いた学校生活が確保できれば、学習意欲が向上し深い学びにつなげることが出来ます。また、深い学びは個々の誇りや自信につながり、基礎がしっかりと定着してこそ特色ある教育の充実へと発展していきます。以上の3点を柱として、北方学園の基本理念は「だれもが安心して学び合える学園」とすることが望ましいです。また、北方町では今後の北方学園での取り組みを着実に進めることにより、義務教育期間の9年間を通して、複雑な現実社会に柔軟に立ち向かっていける「たくましい北方の子」を育てていくことができると考えます。

北方学園の教育方針

【基本理念】

だれもが安心して学び合える学園

深い学び

学習意欲の向上

- 教科担任制の拡充
 - ・専門性の高い授業の実施
- 小中一貫した学習計画の実施
 - ・先取りと学び直しの効果的な設定
- ICTの活用
 - ・興味・関心を高める教材提示

主体的な姿勢

安心・安全

落ち着いた生活

- 9年間を通して児童生徒理解
 - ・安心して学び合える集団づくり
- 異学年交流の充実
 - ・多様な交流による豊かな心の育成
- 家庭や地域と共に育む取組
 - ・コミュニティ学園の活動推進

共に生きる姿勢

誇り・自信

特色ある教育

- 英語教育の充実
 - ・コミュニケーション能力の向上
- 平和・ふるさと学習の推進
 - ・9年間の系統的な学習の実施
- 学校間、校種間の交流
 - ・視野を広め、自ら高まる姿勢づくり

やり抜く姿勢

9年間を通して、「たくましい北方の子」を育む

基本理念「だれもが安心して学び合える学園」を支える3本の柱は、「深い学び」と「安心・安全」と「誇り・自信」です。それぞれの目指す内容は次のとおりです。

① 「深い学び」～学習意欲の向上を図るために～

5年生くらいから徐々に教科担任制を導入し、授業の専門性を高め、子どもの学習意欲の向上を図ります。その際、教員の配置によって、毎年実施教科が変わることがないように、計画的、安定的に指導体制を整えることが必要です。また、先取りや学び直しを位置づけ、確実に学習内容を身に付けられるようにすることや、学習内容の系統性を踏まえた指導により、各教科に対する興味・関心を高め、より理解が深まるように配慮します。その他、学習内容に対する子どもの興味・関心を高め、理解を深める教材提示をするとともに、ICTの活用により、プログラミング的思考、情報活用能力を育成することや、タブレット等の活用により、個に応じた指導の充実を図ることが大切です。

これらの取り組みにより、子どもたちの主体的な姿勢を育てます。

② 「安心・安全」～落ち着いた学園生活を過ごせるように～

教職員が、一人ひとりの児童生徒の様子について9年間を通して切れ目なく理解を深め、個のよさを伸ばすことによって、互いに認め合い安心して学び合える集団づくりをします。また、生活のきまりなどについて、9年間を通して整合性を図ることによって、安心して生活ができるようになります。また、中学校時代の生徒が、低学年の児童と触れ合うことで、心の安定や思いやりの心が育つことが期待できるとともに、低学年の児童は上級生を良い見本として感謝や憧れの気持ちを持つなど、義務教育学校になることで、様々な形態の異学年交流が可能となります。各発達段階に応じて豊かな心の育つ交流活動を計画的に設定することが大切です。さらに、現在進めているコミュニティ学園の取組を推進し、地域、家庭、学園が共通の目標を持つとともに、それぞれの役割を果たし、学園運営に参加することで、安心・安全な教育環境づくりをより推進することができると思われます。

これらの取り組みにより、子どもたちの共に生きる姿勢を育てます。

③ 「誇り・自信」～北方町ならではの特色ある教育を実施～

英語教育の充実を特色ある教育の1つに掲げ、主体的に英語に親しむ姿勢を育てるなど、英語に自信が持てるようにする。また、小学校段階からの先取り学習や外部人材の活用等により、英語によるコミュニケーション能力の向上を図ります。また、現在北方町で進めている平和学習について、9年間の系統的なカリキュラムを作成して充実を図ります。その他、地域行事に積極的に参加してい

る児童生徒のよさを生かし、地域を担う資質を育てる、ふるさと学習を計画的に設定することも大切です。さらに、町内で義務教育学校 2 校になる良さを生かして、互いに高めあったり協力しあったりする良いライバル関係を築いていくことが必要です。基本理念は同じでも、地域性などの 2 校の違いをそれぞれの特色として生かし、北方学園としての幅を広げていくことが大切です。そのためには、共同活動、発表会や競技大会などの行事設定を工夫することが望めます。また、幼稚園・保育園・高校などとの異校種間との連携を進めることも、北方町ならではの特色として生かしていくべきです。

これらの取り組みにより、子どもたちのやり抜く姿勢を育てます。

第 2 節 地域連携について

北方学園は、いわば地域コミュニティの核となる存在として、地域に愛される学校となることが大切であると考えます。そのためには、コミュニティ学園における取り組みを今後もますます推進していくことや、既存の P T A 組織との兼ね合い、組織のあり方についても今後十分に検討していく必要があります。また、当然ながら北学園と南学園では地域を取り巻く環境も異なるため、それぞれの地域の特色を生かした学校運営のあり方を模索していくことが大切であると考えます。今後、事務局・教職員のみではなく、保護者、地元自治会など多くの関係者との連携を図りながら検討を進めていくことが望ましいです。

第 3 節 部活動のあり方について

北方中学校の生徒が北学園と南学園に分かれることにより、部活動の運営方法など、何点か調整が必要な事項があります。例えば、サッカーや野球などチーム競技の場合は必要な人数を確保できなくなる恐れがあります。対策としては南北 2 校での合同チームを編成することが考えられますが、普段の練習方法や指導体制などは今後の検討課題となります。また、南学園では部活ができる施設環境を整える必要があります。具体的には小学校には無かった、卓球、テニス、柔剣道などを行うことができる設備・場所が必要になると思われます。その他、社会人コーチなど指導者の体制をどのように構築するかなども課題となると思われます。

なお、部活動の問題は北方町独自の事情による課題だけではなく、その他にも考慮すべき点があります。部活動に精力的に打ち込みどんどん上を目指そうとする生徒だけではなく、レクリエーションの一貫として楽しく活動したいという生徒にも対応できる体制づくりや、教職員の指導体制や社会人コーチとの兼

ね合いなど、その他にも様々な課題があると思われます。今後は保護者、教職員や社会人コーチなどの関係者のほか、子どもたちの声にも配慮しながら検討を進めていくことが望ましいです。

(参考) 平成 30 年度現在の北方中学校の生徒を
南北の学園に分けた場合の各部活動の人数 (人)

		北学園		南学園		総合計	系統別 合計	加入率 (生徒総数 543人中)
		男	女	男	女			
		小計	小計	小計	小計			
体育系	○ 野球	13	0	3	0	16	325	59.85%
	バスケ男子	14	0	10	0	24		
	バスケ女子	0	22	0	7	29		
	サッカー	19	3	16	0	38		
	バレー男子	19	0	11	0	30		
	○ バレー女子	0	8	0	5	13		
	剣道	12	6	8	1	27		
	柔道	4	0	1	2	7		
	○ ソフトボール	0	7	0	7	14		
	ソフトテニス	0	16	0	9	25		
	陸上	25	10	6	5	46		
	卓球	22	13	15	6	56		
文化系	合唱	0	17	0	12	29	154	28.36%
	英会話	0	13	0	9	22		
	コンピュータ	21	7	15	4	47		
	家庭科	0	19	1	7	27		
	美術	4	19	2	4	29		
合計		153	160	88	78	479	479	88.21%

(注) ○印は南北合同チームにしないと試合に出場できないと思われる部活

※検討委員会での意見及び協議内容

- ・9年間を考えたカリキュラムでやっていくということは、子どもたちに将来の夢を持てるようにさまざまな体験や経験の場を設ける機会が増えてくるのではないかと思います。その中で自分にあったものを選ぶことができると思いますので、いいのではないかと思います。
- ・安心・安全であるということが大事であると思っています。特に異学年交流の充実ということで、これは義務教育学校の大きなメリットであると強く感じております。今の状況を見たときに小学校6年生の学級が上手いかない事例が多いです。最上級生なのにどうしてかと思われるかもしれませんが、最上級生だからこそ目標を見失ったりお手本となる姿が無かったりということで担任が苦しむケースが多くなっています。小学生と中学生、相互にメリットがあるというお話がありましたが、この点については、小学校側に大変メリットがあると思います。今後具体的な取組みに期待したいと思います。
- ・だれもが安心して学びあえる学園という点では、この安心というものは外から与えられる安心だけではなく、子ども同士がお互いを認め合うということが大切です。そういう学校にいかにしていくのか。そして、そのために教員がどのような組織的な取組みをこれから模索していくのかという意味合いが入っていると思います。他校から見ても一つのモデルとなるパイロットスクール的なものにしていける可能性があるのではないかと思います。
- ・アンケート結果などでは、いじめに関する関心が高かった。義務教育学校の根本は、小中学校の先生が連携して児童・生徒一人ひとりに対する理解を深めることであり、いじめをなくす体制が強化できると思う。
- ・従来の小学校・中学校では出来なかった異学年交流を進めることで、低学年の児童にも高学年の生徒にもそれぞれ良い影響を与えることが出来ると思う。
- ・公立の義務教育学校である以上、「だれもが」という言葉は大切にしたい。教育方針のなかで大事にしていくべき。
- ・「深い学び」ということが教育界では話題になっているが、それは安心・安全な学校生活があってこそできることである。当たり前のことかもしれないが、基本的なところが大切だ。
- ・他校の事例を見ると、過疎化・少子化の影響で学校の統廃合を余儀なくされている場合が多いが、北方学園構想では義務教育学校の制度そのものの良さを取り入れるために検討を重ねている。そのメリットを十分に生かしていくことが大切である。
- ・大切なことは、これから二つの学校ができるということです。基本理念・方針は2校とも同じですが、北学園と南学園はよきライバル関係を構築していくことが理想です。資料にある内容をそのままそれぞれの学園が行っていくということではなくて、北学園・南学園それぞれが学園の事情・状況に合わせて独自の文化を教育文化・学校文化を創っていったべきで、同じものであってはいけないと思います。お互いに切磋琢磨していくことが大事で、資料に書いてある方針は大枠ではありますがそれを基にさらにそれぞれの学園でより具体化し、独自のものを創っていった欲しいと思います。

※検討委員会での意見及び協議内容

・不登校について、小学校5人、中学校18人とのことですが、これは一般的に言ったら小学校から中学校に変わるといった環境の変化、新しい友達ができないといった色々な問題があつて起きていることだと思います。今回、一つの学校になることによって学校が変わるのではなく小学校からそのまま中学校に進むことができる。いじめられている子ども、おとなしくて声を出せない子ども、環境の変化に対応しにくい子ども、いい状態で受け入れられる環境になると思います。

・北方町には農業関係の学校があることを生かしていけると良い。高校にとっても意味があることだと思っています。ウインウインの関係をどう作っていくのかということですが、体験とか農業はそのプロセスが見えやすいということがありますので、子どもたちにとってもいろいろ経験させ、キャリア教育や小中一貫だけではなく高校も見据えて、いろいろ考えさせる機会としたいと思います。農業について考えることは非常に重要なテーマであると思いますので小・中・高全体を通してそういうことも視野において考えていくことが大切だと思います。教師自身は、小学校の教師は中学校のことを視野に入れて、中学校の教師は小学校、高校を視野に入れて考えていく教員が今後求められていくと思います。そういうことを考えて北方町は非常にいい状況にあると思います。

・英語教育、平和教育については、これが北方町の今までの中では大きなものかなと思います。子どもだけが育つのではなく教師が育っていく場としての北方町でなければ子どもは育っていかないとします。

・南北の学園で共同で部活動を運営するのか、試合に出るときだけ一緒になるのかなど、運営方法を検討しなくてはならない。

・特に南学園においては、部活動を行える環境を整備しなくてはならない。

・国の制度でも、社会人コーチの制度など部活動のありかたについて様々な改善策が出てきている。それもうまく活用していけると良い。

・いままでも北方中学校の生徒が地域の行事に参加したり、地域の方から声をかけていただくなど地域連携が図られていたが、今回の学園構想をいい機会にして、北学園、南学園それぞれが地域性を生かして地元の行事に積極的に参加していけるようになると良い。

・地域の方が学校運営にも参加していただき、学校と地域が双方向で活動に参画できるようになると良い。

・9年に渡る異学年交流は、大人になってからも地元や地域でのつながりを強くしてくれると思う。グローバルな視野を持ちながら地元に大事にして地域に貢献できる人材育成に資すると思う。

コミュニティ学園協議会に参加している経験から、子どもが小学校に入るまでの幼・保との連携が一番大事だと思います。そこで親御さんへの教育がなければ、その後が進んでいかないのでないかという思いがいつもしています。

第4章 学校施設のあり方について

検討委員会としての意見

小学校教育や中学校教育として必要な教室や運動場などの施設・設備について、必要なものは確実に整えるとともに、安全に生活できる環境が最も大切である。特に、北学園に関しては、現在の北方小学校と北方中学校の間に管理棟を建築し、義務教育学校のメリットである小学校と中学校(前期課程と後期課程)の教員の協力が確実にできるようにする必要がある。また、南学園においては、中学校教育に必要な特別教室などを増築すると共に、子どもたちの体育的な活動が十分にできるようにするためのスペースを確保する必要がある。さらに、財政的な面からは、現有施設を有効利用すると共に、工事中の学校生活にもできるだけ支障が出ないように、工事時期などの調整を図りたい。

北方学園において、基本理念である「だれもが安心して学び合える学園」を実現するためには、それに相応しい学校設備や施設を整える必要があります。財政的な問題を考慮すると、現実的には既存施設をなるべく活用しながらも、必要な部分には十分な予算配分がされることが望ましいです。詳細に関しては今後の検討課題ではありますが、以下に北学園、南学園の配置イメージや方向性を提示します。

※北学園整備のポイント

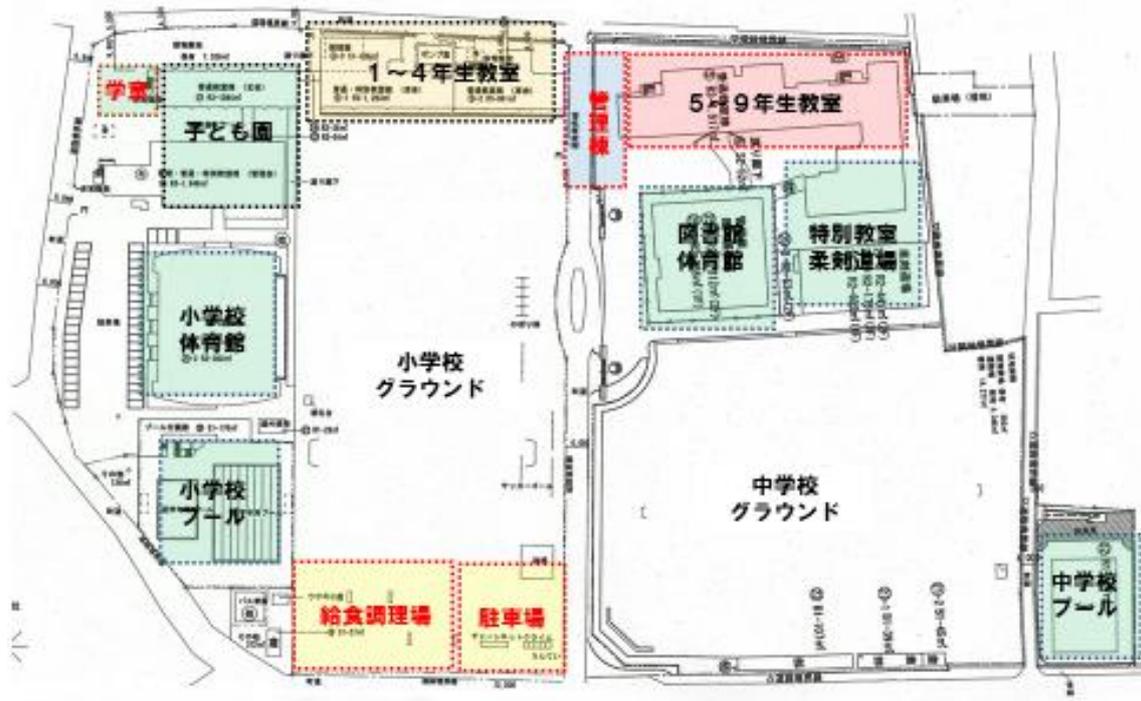
小学校と中学校の教員の緊密な連携を図るために職員室は1箇所にとまとめ、学園全体を見渡せる学園の中央に管理棟を新築する。また、今後のニーズ増大にも応えられるよう、十分な広さを確保した学童保育棟を北西の位置に新築する。給食調理場は南西の位置に新築し、安心安全な給食を効率的に配食できるようにする。子ども園は北方小学校の管理棟を解体すると共に東舎を改築し、定員200人程度の施設を設置する。次に、町立幼稚園は教員の駐車場として再整備する。なお、なによりも児童生徒の安全を優先し、一つの学園として的一致団結を図るためにも中央の町道は廃止することが望ましい。

※南学園整備のポイント

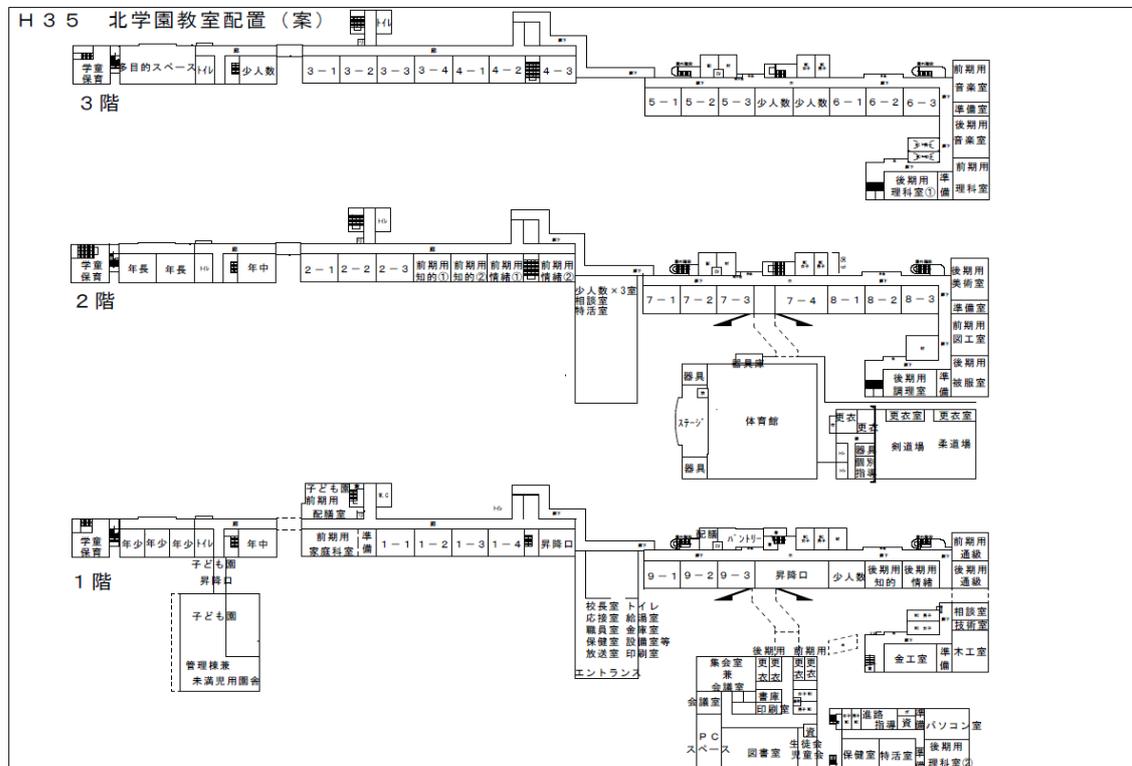
中学の教育課程を履修するための特別教室棟を増築する。また、多目的スペースを柔剣道場に改築すると共に、東側にテニスコートを新設するなど十分な体育・部活動スペースを確保する。その他、学童保育棟を新築し、増員が見込まれる教員に対し、必要な駐車場を整備する。

第1節 北学園のイメージ

北学園のイメージ

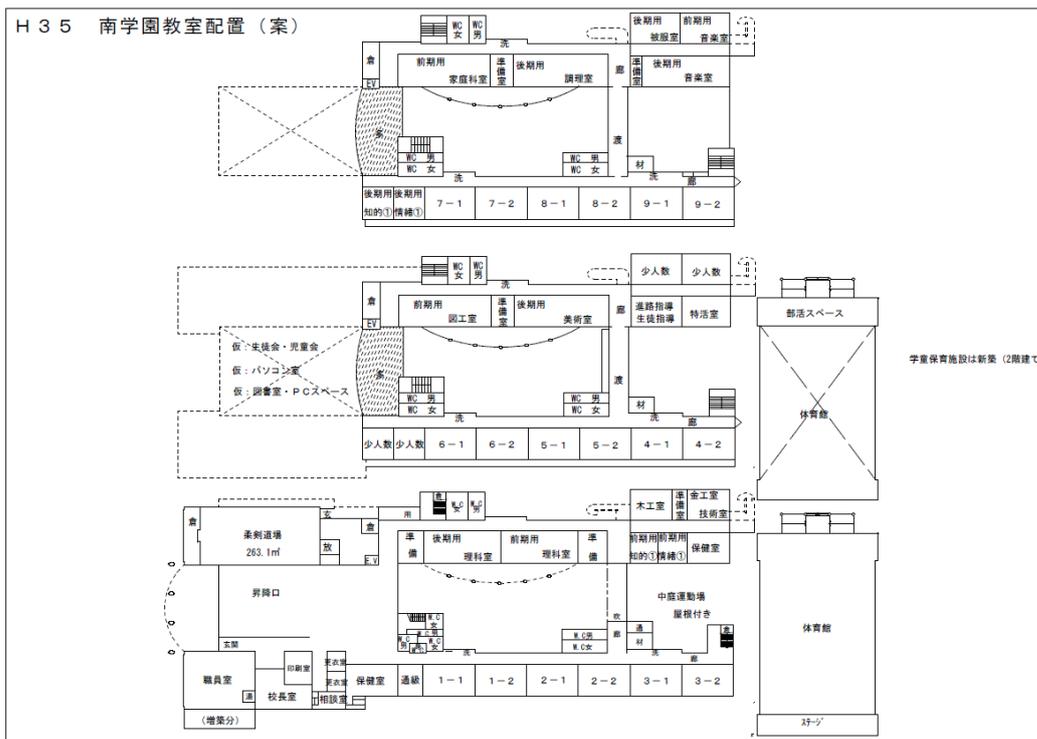
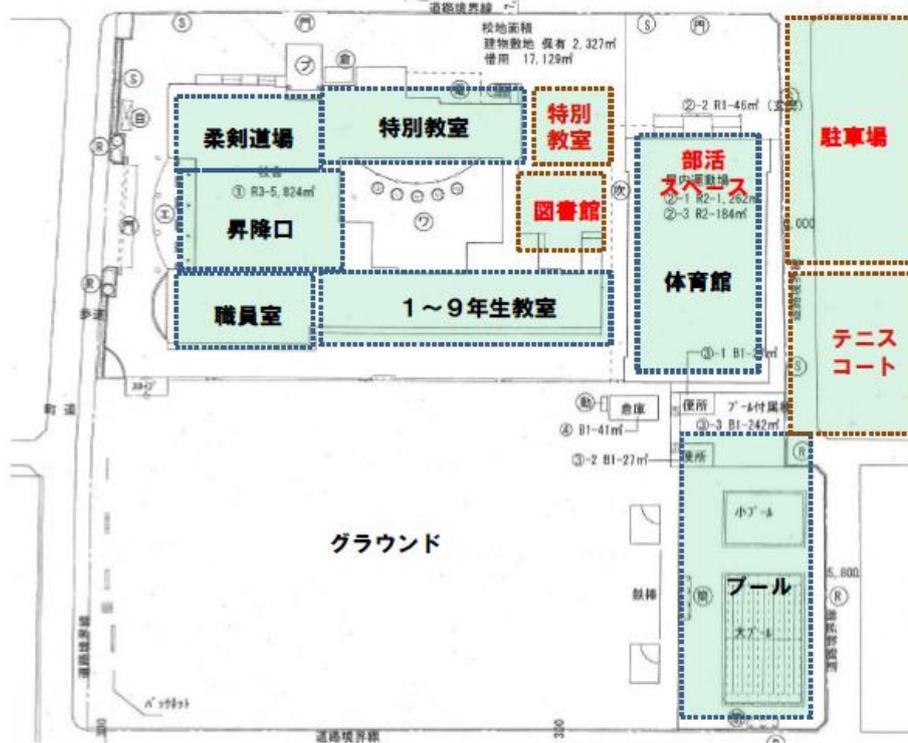


H35 北学園教室配置 (案)



第2節 南学園のイメージ

南学園のイメージ



※検討委員会での意見及び協議内容

・北学園について、子どもはどこから登校するのですか。

⇒子どもの入り口を何処に設置するのかが今後の詳細を決めていく段階で詰めていきたいと考えております。全員が南側から登校することにしてしまうと不便ですのでそのあたりも考慮しなくてはならないと考えています。

・他市町で学校の改築に携わった時の話ですが、大変話題になったのが通学路の話です。今も門を何処にするのかというお話があり、今後十分検討されるということで安心しました。その学校でもいくつか問題点がありまして、朝になるとここが混むということは地域の方がよく知っていて、まず学校が近くなる、遠くなるということがあります。当然通学路が変わる子どもさんもある。そうなってくると朝は安全なのかという保護者の方の関心が非常に高くなり、慎重に進めて早めにお知らせした覚えがあります。もう一つは、悩ましかったのですが、子どもたちが門から入った後に玄関が何処になるのかということです。どのような動線での階段を使って教室まで行くのかという、機能面を考慮するといろんな要素が絡んできて悩ましかった覚えがあります。安全面からと機能面からということについて、千葉でも通学路における痛ましい事件があったばかりですのでご検討いただければと思います。

・在学中の子どもたちへの影響を考えると、仮設校舎を使わない工事計画はとても良い方法であると思う。

・北学園の管理棟について、これだけの部屋を整備すると狭いのではないですか。

⇒あくまでも現時点での想定ですが、約750㎡で約230坪程度です。この建物につきましては建設コストなども勘案しながら、必要な機能を満たすために十分な広さを考えて設計しなければいけません。適切なスペースが確保できるように進めて行きたいと考えています。

・北学園について、真ん中の道路は廃止して敷地をつないで一つの学園にすることを想定しています。くすのきは切らずに木の周りをロータリー化して南から入ってきてメインの玄関に行くというイメージで考えています。

⇒実際の工事を進めるにあたっては地元の方に説明させて頂き、ご理解を頂きながら進めていくことが大事です。ただし、北学園を一つの学校として整備することを考えますと、学校が真ん中で分断されてしまっは一貫校としてのよさが発揮できなくなってしまうので、そういった事情をご理解いただけるようお願いしていきたいと考えています。

・北方小学校の校舎は、管理棟と北舎は全面的な改修、先生がおられる管理棟は建て替える方向で考えています。東舎は大規模改修または長寿命化工事を予定しており建て替える予定はしていません。

・北方小の建物は棟により違いますが、東舎は昭和44年と昭和47年築です。建て替えも検討しましたが有利な補助が受けられないこともあり30年間程度持つように根本的に改修を行います。国の方も改修を優先的に補助金をつけているということもあります。

・南学園ですが、今は多目的室を学年集会等で使用しているが、同じ大きさの部屋を別の場所に作るなど考えているのか。

⇒基本的に柔剣道場は使用頻度が低いので兼用は可能。また、中庭に屋根をつけたり、玄関が広いのでそこを活用する方法などを考えています。

第5章 学園構想の今後の進め方について

検討委員会としての意見

平成31年度から、計画の詳細を調整していく「北方学園開校準備委員会」を創設し、その下部組織として、「施設部会」「学校運営部会」「PTA・学校運営協議会部会」「校名等部会」「部活動部会」「幼・保連携部会」の6つの専門部会を置いて検討を進めていく。各部会においては、園・学校の教職員、地域代表、保護者代表、役場の職員などをメンバーとし、それぞれの立場から実務レベルの協議を進めていくことが望ましい。また、計画に当たっては、現場の教員が主体的に参加できるようにワーキンググループを設けたり、住民や児童生徒の声を反映したりできるような仕組みにしていくことが望ましい。

2023年度（平成35年度）の北方学園の開校に向けて、今後調整すべき事項は数多くあります。地域に愛される学校とするためには、単に事務局のみが調整にあたるのではなく、有識者及び学校現場の教職員や保護者、地域住民など学校に関わるすべての人たちが智恵を出し合っていかななくてはなりません。以下のように、開校に向けてまで詳細を検討する組織体制を整えることが必要であると考えます。

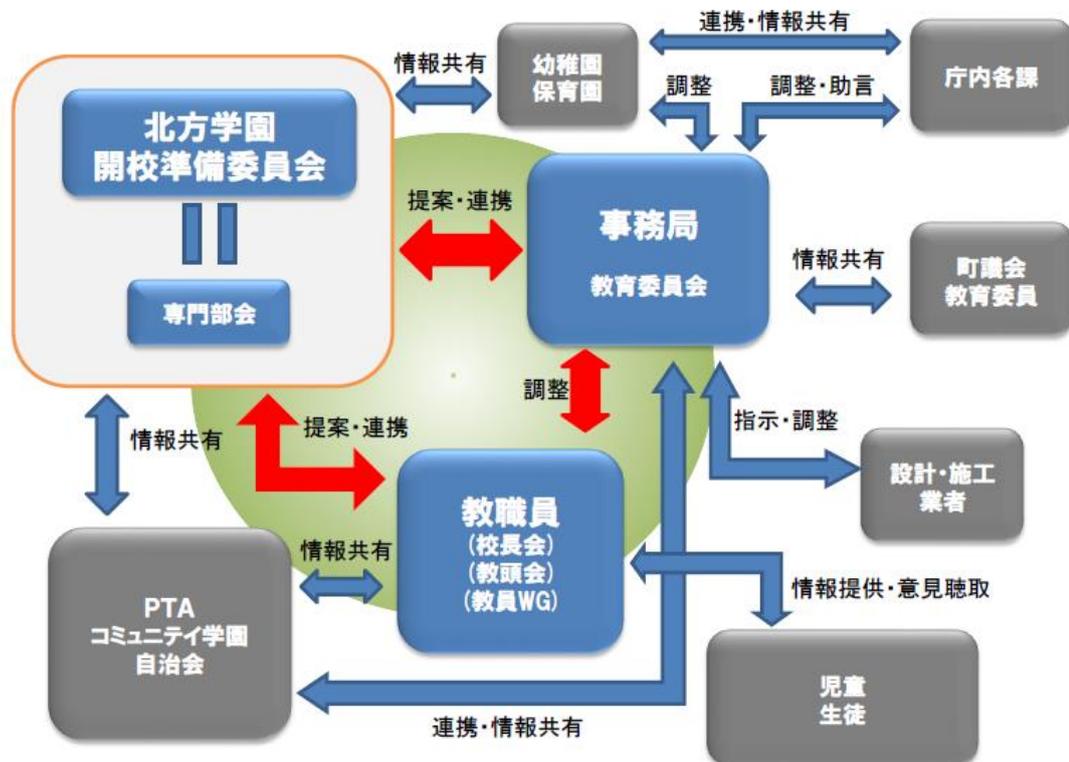
第1節 北方学園開校準備委員会及び専門部会について

北方学園開校までに詳細を調整していく組織として「北方学園開校準備委員会」を創設し、その下部組織として6つの専門部会を置く。専門部会で協議した内容を開校準備委員会で共有し、全体での調整を図る。専門部会はそれぞれの協議内容に応じた人選を、開校準備委員会は関係団体等から広く人選することが必要であると思われます。また、いずれは協議の進捗に応じて専門部会を南北の学園別に分けて詳細な協議を行うなど、柔軟な組織運営が望まれます。



第2節 北方学園開校準備委員会の位置づけ

今後、北方学園構想を進めるにあたっては、開校準備委員会と事務局及び教職員がしっかりと連携して、緊密な情報共有・連絡調整を図ることが大切です。その3者が中心となって、関係組織との調整・情報共有に十分な配慮をしながら協議を進めることにより、北方学園がまさに「地域に愛される」、「地域に根ざした」、「地域コミュニティの核となる」学校となり得ると考えます。



※検討委員会での意見及び協議内容

- ・人員構成について、部会としては一部会5～6名程度で、実務レベルの協議を行う場とする想定をしています。各部会で原案を作成していただき、上位の北方学園開校準備委員会にて報告・調整していただくイメージで考えています。また今後、協議が深まっていけば、北と南を分けて協議しなくてはならなくなることも想定されますので、この方法で決めたら4年間そのまま行くということは考えていません。例えば2年経過した時などに必要に応じて組織を改めるなどの事項も想定しています。実際、教職員などの異動もありますのでそのような見直しも随時必要であると思っています。また、部会によって協議内容のボリュームが違うこともあり、実際の運営に際しては今後の調整も必要だと思えます。
 - ・各部長は準備委員会に参加していただく想定ですが、基本的には準備委員会と各部会の構成メンバーは別にするを想定しています。
 - ・準備委員会のメンバーは各組織の代表を想定しており、全体を共通理解して全体を把握したり方向性を考えたりします。部会の方は学校運営部会についてほとんどは教員が中心となって教育課程を編成したりすることを想定しています。校名・PTA 部会についてはPTAや地域の方々为中心となって進めていただくことになると想定しています。部会はそれぞれの詳細について詰めていくところですのでそれを準備委員会で長が集まって確認・共通理解を図ったりすることになります。
 - ・なるべく多くの教員の意見を学園構想に反映させるため、教員のワーキンググループなどの意見を専門部会や開校準備委員会などで反映させるようにしてほしい。
 - ・今回をきっかけとして、今までの教育課題や良い点などを関係機関全体でもう一度洗い直していくよい契機になると思う。
 - ・学校運営部会の中で教育目標であったり、教育課程そのものをどのように編成していくのかということとか行事をどのようにしていくのか、それこそ具体的には運動会・体育祭をどのようにしていくのか、修学旅行、宿泊を伴う研修などで小学校5年生から中学校3年生まで系統立ててどのように行っていくのかということを検討しなければいけないのですが、北方小学校と北方西小学校は中学校から近いので物理的にすぐ会議を開くことができます。中学校の教頭も訪問しやすいといった点もあります。しかし、北方南小学校には中学校の先生がいないので学校の様子を見ながらかつ中学校の先生がある程度入って早めにやっていたかなければならないのではないのかなと考えています。同じものを2校分考えるのであれば1つ考えればいいのですが、学校の規模も違えば、地域の願いも違うのでそこには地域性を出す必要があると思います。同じ町内であっても2つの学校なので北方南小学校が大事にしてきたことを中学校でも大事にしていかなければならないと思います。そういう意味でも早めに取り組む必要があり、学校の方はただ指示を仰いでいるばかりではなく主体的に進めていかなければならない、ということも内部でも話し合っています。
- ⇒例えば、先行的に取り組んでいく課題などを抽出するなど、検討すべき課題を整理して考えていく必要があると思います。

北方町学校構想検討委員会委員名簿

(順不同)

氏 名	役 職	備考
石川 英志	岐阜大学教職大学院 教授	座長
村山 邦博	岐阜教育事務所 学校職員課長	
翠 治彦	北方町自治会連絡協議会 会長	
大熊 龍夫	コミュニティ学園運営協議会 会長	
仲島 秀雄	北方町PTA連合会 会長	
浅井 孝彦	北方中学校 校長	
大羽 幸恵	北方南小学校 教諭	
井野 勝巳	北方町議会議員	
杉本 真由美	北方町議会議員	

アンケート調査の結果と概要

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、北方学園構想に関する具体的な協議を進めていく中で、大切にしたい教育内容や北方学園に期待する効果などについて、保護者、教職員、地域住民のそれぞれの立場からの意見を聴取し、検討委員会での基礎資料とすることを目的として、北方町学校構想検討委員会が実施しました。

2 調査設計

	保護者用アンケート	教職員用アンケート	一般住民用アンケート
調査対象	・町立小学校 (北小、西小、南小) ・北方中学校 ・町立幼稚園 ・町立保育園 (北、中、東、南) の保護者	・町立小学校 (北小、西小、南小) ・北方中学校 ・町立幼稚園 ・町立保育園 (北、中、東、南) の教職員、保育士	北方町在住者
対象者数	2,300	170	—
抽出方法	同一学校に兄弟が在籍 する場合は長子配布	全員が対象	任意
調査方法	学校にて配布	学校にて配布	Web・役場窓口
調査時期	平成30年5月	平成30年5月	平成30年6～7月

3 回収結果

	保護者用アンケート	教職員用アンケート	一般住民用アンケート
配付数	1,500	170	—
有効回収数	1,363	168	47
有効回収率	90.9%	98.8%	—

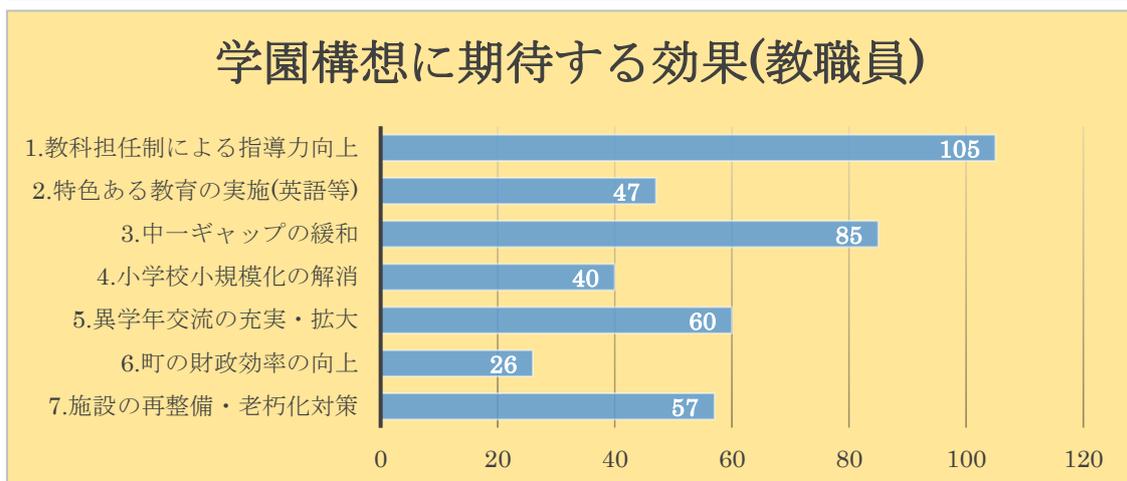
4 調査結果の概要 学園構想アンケート結果について

アンケート回答総数(保護者分) 1 3 6 3通(幼 81 保 305 小 614 中 363)

(教職員分) 1 6 8通

(一般分) 4 7通

① 学校構想に期待する効果



(概要)

- ・教科担任制導入、特色ある教育の実施、中一ギャップの解消に対する期待が多い。
- ・教職員も同様の傾向だが、特色ある教育については不安もあるのでは。
- ・保護者の関心が高かった中一ギャップの緩和については、一般ではあまり関心が高くなかった。

(関連する自由記述)

○教科担任制について

- ・大いに成果に期待している。
- ・小学校高学年から導入したほうが良いと思う。
- ・小学校高学年から中学の学習を見据えて算数、理科、英語を教えてほしい。
- ・小中一貫にすることで学力向上につながる。

○特色ある教育について

- ・特に英語教育に重点をおいてほしい。
- ・高屋地区にある南小は北小、西小、北中から離れているため疎外感を感じることもあった。今後は南学園を核として地域コミュニティが活性化されると思う。
- ・北学園と南学園が互いに切磋琢磨し、お互いの特徴を生かした学園になることを期待している。

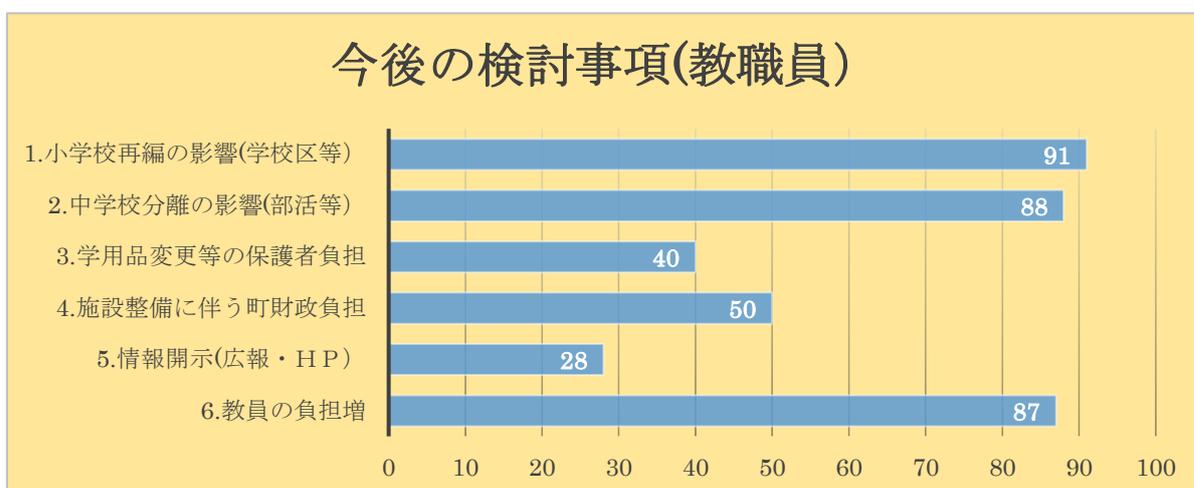
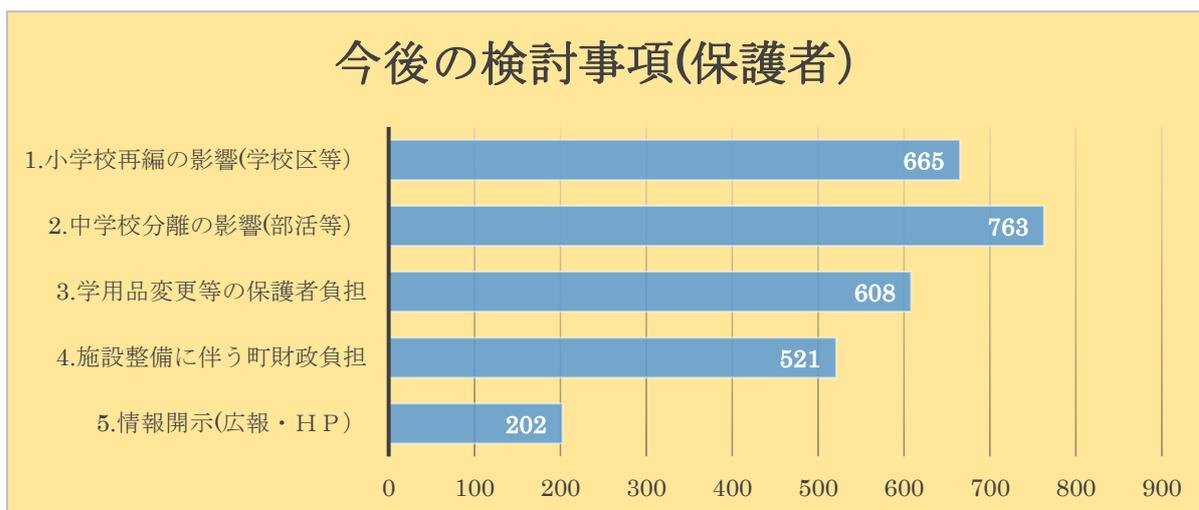
○中一ギャップについて

- ・支援が必要な子どもたちのためになるので良い。
- ・中学校以外でも、高校、大学でも試練はあるので、変化は必要では。

○異学年交流について

- ・南北の交流を行ってほしい。
- ・部活は合同で行ったほうが良い。
- ・具体的な中学生の交流方法については今後の検討課題だと思う。

② 今後の検討事項



(概要)

- ・ 全体的に満遍なく各検討事項に関心がある。
- ・ 中学校の分離に関する関心が高く、情報公開等に関する関心はそれほど高くない。

(関連する自由記述)

○小学校の再編について

- ・今の学区を生かして再編するほうが良い。
- ・校舎建て替えのための仮設校舎など在校生への影響に配慮してほしい。
- ・PTA組織がどうなるのか。また役員が当たるのか不安。
- ・小学校の学級複数化は大変よいことだと思う。期待している。
- ・西小の跡地利用(処分)を考えなくてはならない。

○中学校の分離について

- ・南小校区は中学校が近くなるので便利。ありがたい。
- ・部活動が維持できるような仕組みが必要。
- ・在学中に分離する子どもたちに配慮してほしい。

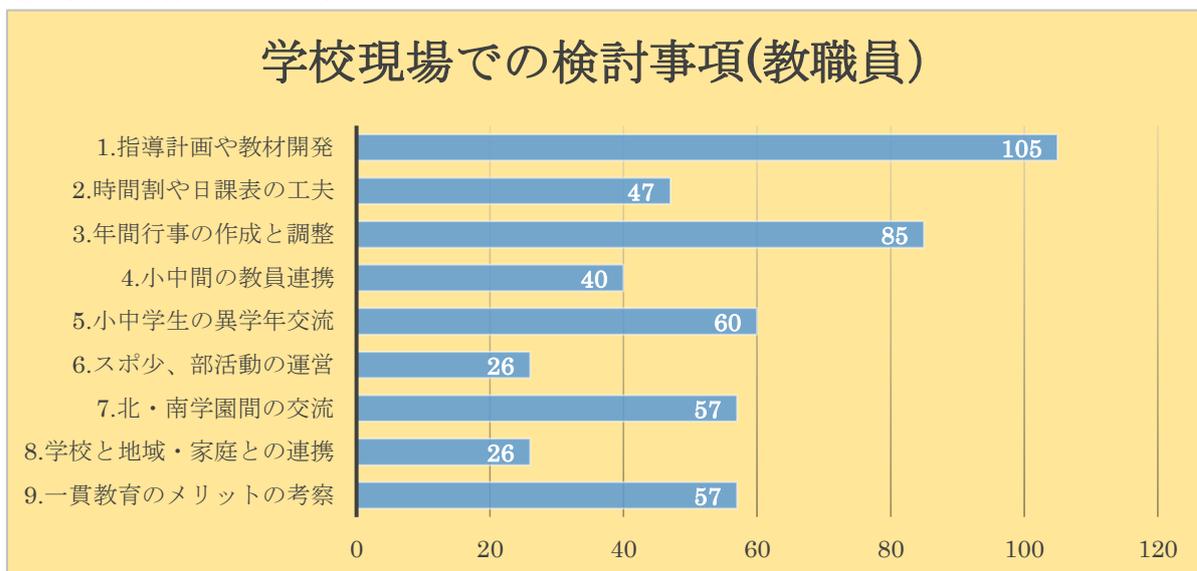
○学用品変更等について

- ・なるべく現状から変えない方が良い。
- ・高額な保護者負担はやめてほしい。

○町財政負担について

- ・この機会に幼・保の再編(民営化)も含めて効率的な体制を築いてほしい。
- ・学校施設の効率が上がる。とても期待している。
- ・1年生から9年生まで、年齢の幅に配慮した施設整備をしてほしい。

③ 学校現場での検討事項



(概要)

- ・指導計画や行事日程など、学校運営全体に関する事項に関心が高い。
- ・保護者では関心が高い、部活動に関する関心は低かった。

(関連する自由記述)

○指導計画等について

- ・北学園と南学園の指導方法等は、それぞれの特色を出すのか、同じようなものにするのか、決めなくてはならない。
- ・9年間を見通した生徒指導体制を築く好機。やり遂げたい。
- ・現場の教員や保護者の声を聞きながら進めてほしい。

○年間行事の作成や調整について

- ・北と南の交流行事を設け、良い意味で競い合っていると良い。
- ・小学校卒業式は何らかの形で残してほしい。
- ・部活動は北学園と南学園合同で行うべき。

○教員の負担増について

- ・一部の教員に負担が集中しないようにしなくてはならない。
- ・他市町の事例を提示するなど、具体案を教えてもらえるとよい。
- ・義務教育学校(小中一貫校)のメリットをよく理解しておく必要がある。

④ その他の自由記述について

- ・小中間で生徒指導が共有できる。期待している。
- ・小中一貫では9年間いじめられないか。
- ・広報、HP、チラシ、説明会などで随時情報公開をしてほしい。
(構想の内容を決めてから教えてほしい⇔決まる前に意見聴取してほしい)
- ・将来の子どもたちのために、ぜひとも推進してほしい。
- ・とてもすばらしい構想。どんどん進めてほしい。
- ・学園構想のメリットとデメリットを明確にして、改革を頑張してほしい。
- ・事業を進める上でデメリットもあると思うが、一つずつ解決していくことで、課題がメリットに変わっていくと思う。
- ・学園構想を機会に30年先の町の教育・町のビジョンも検討してほしい。
- ・情報公開を進め、今後もアンケートに限らず意見を聞いてほしい。

第1回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成30年4月23日

午前9時30分～11時14分

場所 1階まなびの広場

会議の主な内容は以下のとおり

1. 町長あいさつ

平成35年度の開校に向けて先生方にはいろいろなお知恵を拝借しながらいい学校を作っていきたい。一年間ご協力を願いたい。教育力の向上はもちろんのこと子どもたちへの環境整備が必要な中、非常に厳しい財政状況の中で行政を運営させていただいている。北方の未来、これからの将来、町の持続そういったものを含めて総合的な判断からこの事業を立ち上げさせていただいた。その部分も是非ご理解いただいた中で忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 辞令交付

(各委員に対し辞令を交付する)

3. 委員・自己紹介

(委員・事務局自己紹介をする。)

4. 北方学園構想について

議事に入る前にこの検討委員会の座長の選任をお願いしたい。委員の推薦により座長を選任するという事になっている。選任方法について特に意見がないので事務局の方から指名ということを提案する。反対の意見はない。

委員会の座長には岐阜大学教職大学院教授石川委員を指名する。他の委員に異議がないか意見を求める。反対の意見がないので石川委員を座長に決定した。

・学園構想の概要

現在、北方町内にある小学校3校、中学校1校を義務教育学校として2校に再編するという構想である。それ以外にも給食センターの建て替え、幼稚園・保育園の再編も課題として一緒に進めていくが、まずはこの4校を2校にすることが大きな事業である。義務教育学校を簡単に申し上げると小学校6年間、中学校3年間併せて9年間で学習する内容としては同じであるが、この間の垣根を取

り払って9年間一括で学習するということである。例えば、英語教育を小学校5年生、6年生の段階から行うことができるとか、教科担任制の導入など様々なメリットがある。6年、3年の枠に縛られずに9年間を見据えた教育を行うことで落ち着いた学校生活を送れるといったメリットもあるのではないかと考えている。

また、教育力の向上という点かつ施設や設備の効率的な利用、経済性も含め2つの利点が図られるのではないかと考えている。教育力の向上として中1ギャップ、中学校に進学した生徒が急に不登校になったり問題行動が増える、環境の変化が要因とされているが、一貫教育になれば緩和されるのではないかと考えている。また、教科担任制にすることで小学校から専門教員による指導が受けられることで学力の向上が見込めるのではないかと考えている。

日程としては、平成35年4月に開校予定で進めていきたい。また、老朽化が進んでいる給食センターは、平成35年ではなく先行して進めていかなければならない。幼稚園・保育園の再編等についても一緒に検討していく。平成30年度は、この委員会で基本的な方針を決定、年6回の開催を考えている。主に、校区の設定、校舎等の施設配置、増改築、給食センターや幼・保育園の再編計画及び基本的な義務教育学校の教育の方針を今年決めたい。

・児童生徒数と学区割

北方町もゆるやかとはいえ他の市町と同様に子どもの数は減少傾向にある。ただし2歳、1歳、0歳は伸びてきている。

平成35年度北方小プラス北方西小とあるが、参考までにこの区割りで学校を分けるとどうなるかということが書いてある。資料の地図を見ると、例えば真ん中に岐阜関ヶ原線、大きい通りがある。ここで北と南を分けたら、北方南小学校の方の児童が増えることになる。校区ごとの予想で見てもちょっと増加傾向している中でこの区割りでいくと施設規模自体の問題が出てくる可能性がある。また、この線で引くと分かりやすいと言えば分かりやすいが、既に自治会等の組織がなされている。こういった組織がこの線で切ってしまうと今までのつながりや付き合いが変わってしまう。そのため単純にここで切ってしまうていいのかということが正直事務局としてはちょっと難しいと考える。今後の会議の進行上、早めに学区を決めたい。学区に伴って施設の再編計画等に関わってくる。

なお、アンケート調査を行ってはどうかということを考えている。このアンケート調査は、一般住民の方向けはもちろんのこと幼稚園・保育園及び小・中学校の保護者向け、教職員向けこの3方向にアンケート調査を早急におこないたいと考えておりご承認をいただければ、この検討委員会の名前で5月中にでもアンケート調査を実施し第2回目のこの検討委員会でご報告したい。

委員の主な意見は以下のとおり

- 校区の問題、これはもともと問題になってくるのではないかと考えている。
- 北と南で児童生徒数のバランスが悪いのではないか。
- 大きな経費が伴うので、財源問題を十分に検討していく必要がある。
- 施設改修工事の際に仮設校舎（プレハブ校舎）を使用する際は教育環境の配慮を十分に行う必要がある。
- 開校時に中学3年生になる生徒が今まで一緒に生活した仲間と離れてそれぞれの学校で学ぶことになる。育ちの中で大事な多感なその時期に分かれて新しい学校生活を送ることはなかなか難しいことがあるかもしれない。スムーズに新しいスタートを切れるような仕組み等を考えなければならない。
- 今後の町づくりや都市計画ということも視野に入れていかなければならない。
- 授業の日程を考えると実際に今の施設で授業が組めるのか。特別教室の設備は中学校と小学校では大きな違いがあるので机の高さなども踏まえて議論する必要がある。
- 既に義務教育学校を始められている学校で、どのようなことに配慮したかなどの先進的な事例も含めて資料がいただきたい。
- 義務教育学校を開校するにあたり、この5年間で小学校、中学校両方の免許を持った教員を養成する必要がある。
- この会を進めていく上で情報を保護者、住民の方にも上手く出せる仕組みが必要である。そうすることでこの会がスムーズに行くのではないか。
- 教職員の中でも不安な声は上がっている。不安が解消できるよう進めていきたい。
- 教職員が働きやすい環境を作っていただきたい。
- アンケート内容は十分精査する必要がある。
⇒アンケートは事前に座長に確認をしていただいた後、全委員に確認をいただいてから実施する。
- 学校構想検討委員会中で給食センター改築、幼保一元化についてどのようにとらえられているのか。学校の開校と同じような形の中で一元化のことも考えているのか。
⇒給食センターは早急に改築したいと考えている。また、幼保小中が連携できる場所は連携できるように一貫教育が幼から進められるように5年の間に全部は厳しいと思うが順次協議を進めていきたい。

5. 今後の検討委員会の予定について

スケジュールについて説明、意見がないか確認をする。（意見なし）

6. その他

報酬の支払いと次回の日程について説明する。次回会議は6月20日以降で改めて連絡する。

第2回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成30年6月27日
午前9時30分～11時11分
場所 1階まなびの広場

会議の主な内容は以下のとおり

1. 座長あいさつ

本日は、2回目の検討委員会ということで実質的な協議は今日からはじまるということになると思います。みなさまには忌憚ないご意見をいただいてみなさまの合意を大切にしながら進めていきたいと思っています。

2. アンケート結果の報告について

事務局からアンケート結果について説明をする。

委員の主な意見は以下のとおり

○学園構想に対する反対意見はなかったのか。

⇒反対意見は全体の数パーセント程度でした。詳細が分からず不安だという意見は散見されたが、はっきり反対という意見はほとんどありませんでした。

○今後、学園構想の運営方法、進め方を協議する課程の中で不安な要素がまた出てくると思う。学園構想について知らせていただくと保護者の方も安心すると思う。

⇒広報・ホームページに掲載していくことはもちろんのこと、アンケート結果については A4 用紙 1 枚にまとめ、心配の声が多かったご意見に対しては Q&A 方式に整理したものを全ての保護者の方に配布することを考えています。

○校区割りについての意見はあったのか。

⇒なるべく今の学校区を変えないよう、北方小校区と北方西小校区を北学園、南小校区を南学園にして欲しいという意見が多数ありました。また、今の小学校区を分けるような形での校区設定はやめてほしいという意見も多くありました。

その他、中学校在学中に北方学園に移行する生徒に対しては、学校選択制と

いった特例措置などの配慮をお願いしたいという意見や、各学校にはそれぞれの文化があり、良いものは引き継いでいきたいので学校区を分けるのはどうなのかという意見もありました。

○教科担任制について関心が高いと感じた。

⇒岐阜地区内に桑原学園がありますが、その教職員の話では、今まで見えなかったつながりが見えるようになり、中学校で大切になる部分を小学校の段階で意識しながら指導できるようになり、自分の指導力があがったとの感想を聞いています。専門の先生に教えてもらえることは、子どもにとってのメリットもあるが教員側の指導力向上にも役立ち期待が持てるものです。

○特色ある教育の実施とはどのようなものか。

⇒英語という記載があったので、地域の特色というよりもそこにひっかかって教職員の関心が少なくなったのではないかと思います。

○保護者間の話題では、お金の問題がある。制服でお金がかかるからいやという人がいる。部活動が2つに分かれると心配であるとか、今までの友達と別れてしまうなど。マイナスのことが出ている。分からないので不安であるという意見が多いので、できる限り早く情報は提供していただきたい。

⇒今は、仕組を議論しているので見えにくいですが、8月からは、教育方針や学校構想のよさを打ち出していくので、その辺りからだんだんと理解していっただけのではないかと思います。

○9年間を見通して生徒指導ができることはとてもいいことであると思った。

特に低学年から9年生まで指導できることはいい。特色のある教育実施について差があることについて、保護者の方が期待している。学園になってその期待に対する情報を共有しながら期待にこたえていくことが大切であると思う。

○住宅を探している方の意見で、義務教育学校に期待して不動産会社の方が北方町を勧めているということを知っている。

○地域住民は大体この制度については理解していると判断している。以前からお願いしていたが、先生同士が勉強会をしてお互いが成長できる環境づくりをお願いしたい。今回学園になることでそれが実現できると思っている。また、いじめ問題として今までは6年間で済んだいじめが9年間いじめられるのではないのかという意見もある。いじめ問題についてはどう対応していくかの考え方をしておく必要があると思う。

⇒アンケートでは、いじめのことは非常に関心が高かったです。9年間いじめら

れ続けるのではないかという心配する意見もありました。義務教育学校の根本は、小中学校の先生が連携して児童・生徒一人ひとりに対する理解を深めることです。中学校に進級するときには全く知らない先生ばかりではなくて自分を知っている先生がいたり、教科担任制にしても学習面のことだけではなく、一人の担任以外に大勢の教員が一つのクラスに入るので複数の視点からいじめの問題も発見しやすいということがあります。小中連携の根本は安心して子どもが学べることなので、義務教育学校になることでいじめをなくせる体制が強化できると思います。そこを丁寧に説明していきたいと思っています。

○地域の中でも話し合いが持たれるということは大事だと思うので、学園構想が始まる前から小中の先生が連携してそれが見えてこればもっと発信しやすくなると思う。

3. 北方学園構想について

学校区の設定について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○校区割りは非常に大きな問題であると思っていた。北方小学校と北方西小学校が一緒になって北学園は1000名、南学園では500名程度と説明があったが、1000名にもなると学校運営が大変になるのではないかと。そのあたりのバランスの問題を考えて学校区を考えなければならぬのではないかと。保護者は学校区を変えないでという意見が多いが、先生への負担が増えないかといった心配もある。この件についても考えているのか。

⇒1000名という数字は小学校と中学校併せての数字であり、義務教育学校を、小学校の単位で考えると600～700名程度、中学校でいうと350名程度の学校になると思います。各学年で考えると3クラスが基本となり少人数で4クラスとなり、北学園全体では27クラス程度となる見込みです。1000名規模の小学校ならばマンモス校になりますが、県が示している学校の適正規模の基準では義務教育学校の場合は、小中併せて18～27学級が適正規模として示されています。また、南学園も18クラス程度と見込んでおり、適正規模の中に含まれています。

教員の負担に関しては、教職員定数として町全体では小学校2校分と中学校2校分の教員が配分されます。小学校、中学校それぞれの算定基準に基づいて配置されますので現状よりも教員増が見込まれます。また指導体制としては、校長は1人ですが副校長や教頭が複数配置されますので充実した体制としてやっていけると思います。

○生徒数が1000名程度になると先生は何名程度になるのか。

⇒正規の教員だけで小中あわせて50～60名になると思われますが、非常勤講師等がおりますので実際は70～80名程度になると思われます。

○今、北方小学校で何人、北方西小学校で何人、北学園になったら何人といった資料をいただくと比較しやすい。

⇒学級数が決まりましたら算定できますので、今後資料提供します。

○校区の選定は、北方西小学校全体を北学園にするのか、あるいは一部を南学園にするのか。そこで地域が生徒も親も悩むところである。基本的に北方西小学校の生徒は全員北学園へということになると地域がもめることがないと思う。ただ心配しているのは、片方の学校は1000人規模、もう片方の学校は500人規模となった時に、どういう風に分けたのかという質問をしてくる人がいると思う。それについてどう説明するのかということが問題になろうかと思う。

○近い方に行きたいという方がみえたらいけるようにしてはどうか。

○生徒数が決まらなるとクラスの数も先生の数も決まらなないので半年くらい前に決めてしまつて教員の数を決めてしまわなるといけないと思う。

⇒地理的に言えば、例えば北方西小学校でも明治製菓の南側辺りは南学園の方が近いのではないかと思います。学校選択制を検討する中で地域別にするのか年度で区切るのかそういったことも含めて皆さんが納得いただけるような方法にしなければならぬと思っております。

○今、1.5キロメートルを超えるとバス通学になっているがリサイクルセンターのあたりの方は1.5キロメートルを超えていないのか。

⇒超えないです。

○なるべくなら南北で人数がそろっていたほうがいいとは思いますが、義務教育学校に限らず小中学校は地域に根ざした学校なので近くの学校であることが大切である。また、地元の自治会とのかかわりが大切であったり、今の学校の良い伝統を北方学園に引き継ぐことも大切である。物理的にも南学園にたくさんの校舎を建てるのは難しいこともあるので、自然に考えていくと基本は北方小学校と北方西小学校が一緒になって北学園、南小学校が南学園といった方が落ち着くのではないかと思う。

○学校の実験制というのは具体的にどのような形で選択できるのか。

⇒具体的なことは今後ということになりますが、例えば、北方学園が開校したと

きに、中学校2年生まで北方中学校に通っていた子が南学園に移ることになるので、環境が変わるから心配な方は北学園に残ったり、家から近いから南学園に行きますというように選択できる方法とか、対象地区を設定してその地域生徒は学校が選択できるとか、やり方はいろいろあると思います。

○今後の検討課題ということでもいいのか。

⇒本日は、学校選択制までは決められないので今後の検討事項ということでご認識いただきたい。

○北小と西小が北学園、南小が南学園とする案はメリットが多いと思う。子どもたちは転校しなくても良いし、子どもたちを見守っていただける地域の方がそのままということは非常に安心につながるのではないかと思う。南学園については9年間で南学園の文化を高めていける目標を持った指導が必要となってくると思う。

○人数のことは一見大事に見えるが、そのことに引っ張られて機械的に学校区を割ってしまうのは良くないと思う。それよりも大事にしたいのは今まで積み上げてきたものであったりとかこれから積み上げていくものをどうしていくのかということで、今までの校区は大事にしていきたいと思う。

ただし、中学校に入学した子どもが分かれてしまうということには配慮が必要かと思う。部活動のこともあるので。学校選択制度という中で部活動ということも選択肢に入れるという議論の余地はあると思う。移行期の措置は必要だが、移行しきった後は地域の学校として安定していくのではないかと考えている。

※以上の協議の結果、学校区については、北方小学校区及び北方西小学校区を北学園校区、北方南小学校区を南学園校区とする案で全委員が了承。特に反対意見はなく、同案を検討委員会案として決定することとなった。

次に施設配置（案）について説明する。主な意見等は以下のとおり。

○在学中の子どもたちへの影響を考えると、仮設校舎を使わない工事計画はとても良い方法であると思う。

○南学園のプールは1つということか。小学校と中学校併せても1つでいいということか。

⇒基準ということだと思いますと問題はないと考えております。詳細は今後詰めてまいりますので必ずしもこの案で行くということではありません。

○北方小学校の校舎はどうするのか。改修で済ませてしまうのか。
⇒北方小学校の校舎は、管理棟と北舎は全面的な改修、先生がおられる管理棟は建て替える方向で考えています。東舎は大規模改修または長寿命化工事を予定しており建て替える予定はしておりません。

○この校舎は大丈夫なのか。雨漏りとかはしていないのか。
⇒雨漏り修繕といった部分的な修繕ではなく今後長期間にわたって使用できるような改修を行う予定です。

○この建物は建ってから何年経っているのか。
⇒棟により違いますが、東舎は昭和44年と昭和47年築です。建て替えも検討しましたが有利な補助が受けられないこともあり30年間程度持つように根本的に改修を行います。国の方も改修を優先的に補助金をつけているということもあります。

○確認ですが、門は西と南にしかないということか。
⇒今後検討してまいります。

○南学園ですが、今は多目的室を学年集会等で使用しているが、同じ大きさの部屋を別の場所に作るなど考えているのか。
⇒基本的に柔剣道場は使用頻度が低いので兼用は可能と考えております。また、中庭に屋根をつけたり、玄関が広いのでそこを活用する方法などを考えております。

4. その他

次回の日程と内容についての事務連絡。

今回は、学園の教育方針や施設の詳細などを協議したい。開催日は8月20日過ぎを予定している。

第3回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成30年8月29日

午前9時30分～11時08分

場所 1階まなびの広場

会議の主な内容は以下のとおり

1. 座長あいさつ

改めましてみなさんおはようございます。本日は、第3回目の検討委員会ということで協議も非常に重要なところに入って参ります。北方学園構想をよりよいものにしていくためにみなさまにはそれぞれの立場からいろいろ多面的に忌憚ないご意見をいただきたいと考えております。

2. アンケート結果の報告について

事務局からアンケート結果について説明をする。

委員の主な意見は以下のとおり

○アンケート結果が47通とあるが、どのような形でアンケートを取りましたか。

⇒広報誌及びホームページにて周知をさせていただきました。また、教育委員会関係窓口でアンケート用紙の配布もさせていただきました。当初は1ヶ月程度のアンケート期間と考えておりましたが、集まりが悪いということで2ヶ月ほどに期間を延ばして実施させていただきました。

○47通の意見では全体からみると意見が出たとは言えないのではないですか。それだけ関心が薄いというふうに感じます。40、50代が多いのは自分の子どもが中学校になるか中2、中3で受験の中で移動することを考えて心配事ではないのかなと思います。

⇒40、50代の方は、保護者の方が多いと思われます。すべての保護者の方向けのアンケート調査は別に行っており、そこと重なるため回答数が少なかったのではないかと考えています。調査はホームページでも実施しており、窓口にもアンケート用紙を用意しておりましたが、保護者以外の一般の方の関心はあまり高くなかったのかなと考えております。なお、多くの意見を頂くという点においては、保護者の方向けのアンケートは1300通を超える回答数がありましたので、こちらの方である程度集約できているのではないかと考えております。

○いまの段階ではこの程度の関心だろうなという気はします。中身が分かってくると意見が出てくる気はします。

⇒保護者の方は保育園から中学校3年生までの保護者はアンケートを出しているので子どもに関わっている人はみんな出しており、それ以外の方が今回の結果に反映されていると思います。

3. 北方学園構想について

各学園の施設配置について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○北学園について、真ん中の道路はどうなりますか。

⇒前回にもお示しさせていただきましたが、道路を廃止しまして学校を敷地につないで一つの学園にすることを想定しております。くすのきは切らずに木の周りをロータリー化して南から入ってきてメインの玄関に行くというイメージで考えております。

○この道路を廃止するといろいろな影響が出てくると思います。

⇒実際の工事を進めるにあたっては地元の方に説明させて頂き、ご理解を頂きながら進めていくことが大事だと考えています。ただし、北学園を一つの学校として整備させていただくことを考えますと、学校が真ん中で分断されてしまっは一貫校としてのよさが発揮できなくなってしまいますので、そういった事情をご理解いただけるようお願いしていきたいと考えております。

○道路は閉鎖しますが、子どもは入れるのですか。

⇒子どもの入り口を何処に設置するのは今後の詳細を決めていく段階で詰めていきたいと考えております。全員が南側から登校することにしてしまうと不便ですのでそのあたりも考慮しなくてはならないと考えています。

○北学園の管理棟について、これだけの部屋を整備すると狭いのではないですか。坪数でいくとどれだけありますか。

⇒あくまでも現時点での想定ですが、約750㎡で約230坪程度です。この建物につきましては建設コストなども勘案しながら、必要な機能を満たすために十分な広さを考えて設計しなければいけません。適切なスペースが確保できるように進めて行きたいと考えています。

○南学園の建て増しをするための基礎がすでに作ってあると聞いています。実際どうなのですか。

⇒増築する特別教室棟と思われませんが、既設の基礎があるわけではありませんので基礎から作っていきます。

○他市町で学校の改築に携わった時の話ですが、大変話題になったのが通学路の話です。今も門を何処にするのかというお話があり、今後十分検討されるということで安心しました。その学校でもいくつか問題点がありまして、朝になるとここが混むということは地域の方がよく知っていて、今日のアンケート

結果にもありましたが、まず学校が近くなる、遠くなるということがあります。当然通学路が変わる子どもさんもある。そうなってくると朝は安全なのかという保護者の方の関心が非常に高くなり、慎重に進めて早めにお知らせした覚えがあります。もう一つは、悩ましかったのですが、子どもたちが門から入った後に玄関が何処になるのかということです。どのような動線でどの階段を使って教室まで行くのかという、機能面を考慮するといろいろな要素が絡んできて悩ましかった覚えがあります。安全面からと機能面からということについて、千葉でも通学路における痛ましい事件があったばかりですのでご検討いただければと思います。

○子どもたちの動線をシミュレーションしながらいろいろ考えていくことは非常に大事だと思います。

※以上の協議の結果、施設配置については、原案を基本として学校運営に必要な設備を整えていくことを委員会の方針として決定した。

次に、教育方針（案）について（資料3）について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○方針の中の「安心・安全落ち着いた生活」の部分のところで、不登校、小学校5人、中学校18人とありますが、これは一般的に言ったら小学校から中学校に変わるといった環境の変化、新しい友達ができないといった色々な問題があって起きていることだと思います。今回、一つの学校になることによって学校が変わるのではなく小学校からそのまま中学校に進むことができる。いじめられている子ども、おとなしくて声を出せない子ども、環境の変化に対応しにくい子どもも、いい状態で受け入れられる環境になると思います。

○これからは英語が必要ということで英語教育を充実させてほしいと考えています。加配の英語教師を配置するには財政的な問題もありますが、町単で増やしてでも充実させていく、それくらいの取り組みをしていかないと現状では教えきれないと思います。加配教員の配置を検討していただきたいと思います。岐阜農林高校との交流を図っているということについてですが、これも中高の体験学習などに取り組んでやっているのも充実させてやっていただきたいと思います。さらに、岐阜農林高校に限らず特色のある高校などとの交流があればと思っています。また、前回も生徒数が1000人と500人になることに対して危惧しているといいましたが、山県市では過疎化の対策ということもあってか、希望する学校に通学できるという取り組みをしていると伺っております。北方でも北学園に行きたい、南学園に行きたいといった希

望により学校が選択できる制度があればアンバランスにならないのではないかと思います。

⇒英語教育を充実していくことは学校の特徴として打ち出ししていけたらと思います。岐阜農林高校は北方町内の学校なので、体験交流や高校生の演劇を中学生が観る機会をもつなど、様々な場面で交流をしていきたいと考えています。北方町以外の学校とは難しいところがありますが幼・小・中そして高校へと繋がっていきますので高校との交流は一日入学とかオープンキャンパスであるとか、例えば本巣松陽高校は近いので工夫していきたいなと思います。選択校区については、いい面と悪い面があって、やはり地域との連携を考えますと地域の学校に行くということは大事なことだと思います。そこについては2回目の会議でも話題になりましたが、校区の境目や通学距離、部活動が北学園にあって南学園にないとかということで変わるということはあると思いますので、今後検討していきたいと思います。

○今回は義務教育学校ですが、私が魅力を感じるのは、北方町には農業関係の学校があることを生かしていくことです。高校にとっても意味があることだと思っています。ウインウインの関係をどう作っていくのかということですが、体験とか農業はそのプロセスが見えやすいということがありますので、子どもたちにとってもいろいろ経験させ、キャリア教育や小中一貫だけではなく高校も見据えて、いろいろ考えさせる機会としたいと思います。農業について考えることは非常に重要なテーマであると思いますので小・中・高全体を通してそういうことも視野において考えていくことが大切だと思います。教師自身は、小学校の教師は中学校のことを視野に入れて、中学校の教師は小学校、高校を視野に入れて考えていく教員が今後求められていくと思います。そういうことを考えて北方町は非常にいい状況にあると思います。英語教育、平和教育については、これが北方町の今までの中では大きなものかなと思います。子どもだけが育つのではなく教師が育っていく場としての北方町でなければ子どもは育っていかないと思います。そのような考え方も方針の中に位置づくといいいのかなと思います。

○義務教育学校のよさを考えた時に前回、教員側のメリットも大きいというお話はさせていただきましたが、子どもたちのメリットも大きいと思います。それは近くにお手本となる姿があり、なおかつ従来の小学校・中学校では味わうことができない多様な学年・年齢の子たちをコミュニケーションの相手として発信・受信することが容易にできるということです。そのことを踏まえて事務局から説明のあった英語もそうですし、ICTといった情報がすばやく発信できる、やり取りができることはすべてそのとおりでコミュニケーション能力を基盤としていくことは大賛成であります。その先ですが7歳から15

歳というのは20年経つと27歳から35歳でそれこそ地域コミュニティのリーダーになっていく人たちが学園時代のあの先輩がいたから、あの後輩がいたからということが培われていてその地域を愛する社会人になっていくのではないかと思います。今、グローカリゼーションといわれていてグローバルな視野を持ちながら地域を大事にして地域のために貢献できる。これが求められる人材だと思いますので地域への愛着というところも一つどこか念頭に置いていただけたらなと思います。

○方針案にもあります深い学びに関して、教員として小中一貫教育になることでとても専門性の高い勉強を生かした授業ができるということはとても大きな特徴だと思います。子どもたちは非常に吸収力があるので教師側が専門的な授業ができると子どもたちはどんどん伸びると思います。毎日教材研究をしています、教科担任制になることでもっともっと伸びて行って、子どもたちに力がついていくのだらうなと感じています。9年間を通して生徒指導ができるということはとても大きなことで、例えば3年前に5年生だった子どもが今中学校1年生になっていますが、中学生はとても早く登校するためほとんど会えません。気になる子はたくさんいますし、会いたいなと思ってもなかなか会えないですが、小中一貫になることで毎日でも子どもと顔を合わせられますし、子どもの変化にも気付くことができます。また、先生間でもコミュニケーションをとって生徒指導ができるといったことが非常に良いことだと思います。誇りと自信に関しては、地域に誇りを持って愛着を持てる子どもを育てたいと思っています。特に北方町では、平和学習、郷土学習などそういうことに力を入れていきたいなと思います。北方には歴史もたくさんありますし、そのことを勉強することで北方町っていいなと再認識できます。先日実施された地域の清掃活動に参加しましたが、昔教えていた子どもが高校3年生になっていてその子が朝の清掃活動に参加していて久しぶりに会いました。北方町のためにと行って清掃活動に参加できる。そういった地域ぐるみの参加といったところも小中一貫教育を行うことによって、いずれ北方町でできることをしたいなという子どもがたくさん育っていくのかなと思います。夏にサミット会議が行われて小学校・中学校であいさつ運動での取り組みなどをきりりホールで報告しましたが、小中一貫校になることで9年間を通してあいさつ運動など北方で一緒にやっていけることができると思います。

○義務教育学校に限らず公立の義務教育を行う学校なので、「だれもが」という言葉ははずせないと思います。学校がどのような形になってもその学校に通う「一人ひとりに」、「一人ひとりが」、になっていないと義務教育としての責任を果たしたことはないのだから「だれもが」楽しく学べる学校、「だれもが」安心・安全に学べる学校、ということはずせない。「だれもが」誇り

や自信が持てるというキーワードが出てきますが、「だれもが」「一人ひとりが」ということを教育方針として大事にしていくべきだと思います。また、学校は楽しくなくてはいけないと思います。その楽しい中身とは楽しく学ぶ中に深い学びが入っていること、楽しいの中に安心・安全がないと本当の意味で楽しくないでしょうし、そういった意味で楽しく学ぶ、学びあえるそういった学校にしていきたいと思います。そして、誇りや自信もキーワードになっていますが、子どもたちにとっては、夢が広がるとかそういった学校にしていきたいと思います。また、自信や誇りや夢に関する部分で、キャリア教育の話ですけれども、自分のものを作るとか、自分を見つめる、自己理解が深まるなどそういったことを、9年間の中で教師がきちんと子どもたちの育ちを認めながら、子どもたち自身に自分がさらに何を学ぶべきなのか考えさせ、さらに義務教育が終わった後にでも続けていけるような、そういった基盤を作っていけるような教育をしていきたいなと考えています。

○深い学びということが今教育界では話題になっていますが、深い学びということは実は安全や安心、楽しいということに支えられないとできないのではないかと思います。考えてみれば当たり前のことですが、そこを忘れてしまいがちですので是非そのあたりも大切にしたいと思います。また、一部の子どもだけではなく、「だれもが」というところも位置づけるべきではないかと思う。一貫校どうこうではなく、義務教育としてそのところもベースとして押さえておくべきではないかと思う。それをどうやって具体化していくかについては、これからの小中一貫校としての北方学園の特色に即したものを創っていかなければならないと思います。

○コミュニティ学園協議会に参加している経験から、子どもが小学校に入るまでの幼・保との連携が一番大事だと思います。そこで親御さんへの教育がなければ、その後が進んでいかないのではないかという思いがいつもしています。子ども会に入る人が少なくなっている問題がありますが、地域でのふるさと学習や平和学習などそういうことも忘れずに小さい子どもの時からの継続が大事だと思います。小学校へ入る時もその前にそういう準備もあるということを保護者や地域の方にも知らせていきたいと思う。岐阜農林高校のことに関しては、演劇などをして自分でアピールをする力はすごくあると思います。そういうところと交流することで子どもたちも発表をする力や、声の出し方も変わってくるのかなと思います。そういう連携が今大事だと思って協議会をやっていますが、協議会の活動が北方学園の運営に生かすことができればいいなと思います。

○親の立場からすると学校に行つてのびのびと勉強や色々なことを学んで欲し

いなと思います。羽島市桑原学園、白川郷学園、両校見学させていただきましたが、子ども一人ひとりの目がきらきらとしていました。自分の役割として何をすればいいのかということを理解し、上級生が下級生に例えば理科のトマトの授業を通して教えてあげたり一人ひとりがその学年にあった役割をしていけたらいいなと思います。先ほどの説明で、北方町は夢や希望を持っている子どもが少ないとありましたので、夢や希望に向かって努力している方を呼んで意見をいただけたらいいなと思います。

○家庭との関係について、先生がどこまで家庭に入っていたりいただけるのか、今どのようなことをやっていますか。

⇒家庭教育学級など、保護者の方にも色々なことをお伝えする会がありますが、なかなか共働きなどで出てこれないので、最近は企業などでも家庭教育の取り組みを行っているところもあります。北方町においては、家庭教育推進員が幼稚園・保育園の保護者に対して、今までの経験を生かしてこういうことが大事だという相談会などを開催したりしています。

○不登校の生徒がいる家庭に対する対応はどうしていますか。また、どういう形の不登校が多いですか。

⇒15人いたら15人とも違うので一律の対応は難しいです。家庭の中の生活習慣が十分ついていない、送り出しができていないなどの家庭事情、学校での勉強、友達関係などそれぞれ不登校の原因は違います。保護者と一生懸命連携を取って解決しようとはしますが、保護者の意識もまちまちであったり、何かと苦労して対応している状況です。

○今家庭のことがありましたが、これを期により地域の学校という位置づけを明確にするといいのではないかと思います。特に北方南小学校には新たに中学校ができることになるので、南学園は南部地域のコミュニティの中心となってくると思います。これまでも北方中学校で子どもたちが地域の行事に積極的に参加する様子や地域の方から声をかけていただけることを見ていると、今は地域連携が上手くできていると思いますが、今後も何もしないままでは、だんだんと薄れていくというか時代が変わっていってしまうと思います。今回、北方学園構想をいい機会にして再度、学校が地域へ積極的に参加していく部分や、家庭や地域ができるだけ学校に来ていただけるような学校の運営について、学校と地域がお互い双方向に参画して密着していくということも、キーワードに入れていけるといいと思います。

○次の学習指導要領には社会に開かれた教育課程ということがあります。その開かれたということは地域から学校へということだけではなくて学校から地

域へという両面があり、そのあたりの危惧は高まってきていると思います。今は学校が閉じている、地域に対して閉じている、そういう状況にあると思います。今回の義務教育学校の設置は、幼・小から高校への連携という仕組みの中で、社会に開かれた学校ということを実質的にどうやって実現していくのかということを考える、大きな転機なのではないかと思います。

○この1年間、小学生・中学生は本当に前向きに地域活動に参加してくれています。先般も町内美化運動を行いました、本当に精力的に行ってくれました。委員がおっしゃられたとおり、学校は楽しくなければいけないのですが、子どもサミットのあいさつ運動では、小中学校の児童・生徒たちは最近、本当に元気な顔になりました。誰もが楽しく学校に行っている環境をこの学園構想ができるまで継続していきたい。近頃は地域も小中学生をバックアップしており、いいことはいい、注意すべきことは注意しており、私は生徒にはなるべく褒めてやって育てていくことにしています。地域のことは安心して各自治会長、民生委員にお任せして欲しいと思います。

○「だれもが」ということについて、先日、車椅子の方とお話をする機会がありました。その方によると、「ある施設の係員に『ここはバリアフリーだ』と説明されましたが、全然バリアフリーではありませんでした。私たちからしたら2センチ、3センチの段差が上れないのです。」ということがあり、感覚のズレを痛感したとのこと。もし車椅子の子どもたちが学校に通うようになった時には今回、いろいろ建物を建てられるのでそういった子どもたちの目線で学校が作れると、誰に対してもいい学校、やさしい学校になるのではないかと思います。

○インクルーシブ教育は大事な視点になってくると思います。特別支援教育というものをどのように位置づけるのかということに留まらず、一人ひとりの子どもがお互いを尊重し合える学校をどう創っていくのか、ということがインクルーシブ教育の根本になると思います。それがだれにでも、だれもがということだと思います。そのようなことも位置づけていくことが大事だと思います。

4. その他

次回の日程と内容についての事務連絡。

今回は、引き続き学園の教育方針について協議したい。開催日は10月20日過ぎを予定している。

第4回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成30年10月29日

午前9時30分～11時40分

場所 1階まなびの広場

会議の主な内容は以下のとおり

1. 座長あいさつ

おはようございます。今回は8月29日の大変暑い中で開催されたことが思い出されますが、ようやく過ごしやすい季節となりました。本日は、第4回目の検討委員会ということで実質的で重要な協議となると考えております。課題はいろいろございますが、今後のデザインを考えていく上で実質的にどのように北方の教育を展開していくのかそれについてみなさんと一緒に考えていきたいと考えております。みなさまにはそれぞれの立場からいろいろ多面的に忌憚ないご意見をいただきたいと考えております。なお本日は、北方学園の根幹とも言えます教育方針等に関する協議が中心となってきます。また、来年度に向けての学校構想をより具体化していくための検討組織に関する提案がなされると思います。みなさまのご意見や願いがどのように構想の中につなげて具体化していくのかそのようなことを考えて参りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

2. 北方学園構想について

・教育方針について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○安心できる環境がないとなかなか一生懸命になるということは難しいと思います。子どもは照れがあります。中学生の時に一生懸命になるということがかっこいいと思える学校にしたいと考えています。それを踏まえて、「だれもが安心して学び合える」ことは学校が一番大事にしていきたいことだと思います。「深い学び」「安心・安全」「自信・誇り」にしても学校の教育ビジョンを選ぶ時には柱として大事にしていきたいと思う内容なのでこのような形で入っていると学校現場のレベルに落とした時でも学校の教育計画が立てやすいと思います。子どもの面から考えますと小学生と中学生と一緒に生活できるということは、子どもにとって小学生は中学生に憧れを持ち、中学生は小学生に良いお手本となるということで、朝のあいさつ活動の様子を見ても小学生と中学生と一緒に活動することは大変教育効果も上がるのではないかと大変期待しております。

○今までみなさんで話し合ったことが上手くまとめられていると思います。様々な場所で保護者の意見を聞きますと、いじめの問題を一番心配されるようです。この教育方針は子どもたちを中心に意見がまとめられていると思います。これが実現できればとてもいい学校ができると思います。

○9月23日に自治会の総会がありました。その際に、町長、教育長から学園構想について各自治会長に説明を行っていただき、各自治会長とも興味深く話を伺いました。ここにもありますように特色ある教育、特に英語は小学校から取り入れていっていただける。今、就職するためには英語が必須であることから4年間の大学生活にプラスして1年語学留学して英語を習得する子どもが増えていると聞いております。小学校から英語教育を深く行うことで将来的にも留学しなくても大学の中で勉強を行えると考えております。

○だれもが安心ということが教職員の間でも合言葉となると良いと思います。9年間学校に子どもたちが通うということになると、多くの教員で1年生の頃から知っている子が中学校3年生になるまで共通理解を図りながら、指導経過について見ていけるということになり、だれもが安心してということに繋がっていくため良いのではないかと思います。また、いま行っている北方町の学校教育の良さを色々な場面で残しているところも素敵だと思います。それは例えば、地域との連携を図ること、地域・学校・家庭との連携が図れているところなどが挙げられます。北方小学校と北方中学校は物理的に距離が近くて北方中学校が行っている良さを北方小学校が見てあんなふうに挨拶ができたらい、などとお手本としても見て育っているのも、南学園でも中学校の良さから学ぶ、小学校の良さから学ぶといった事が近くで行われることはいいことであると思います。また、特色ある教育にもありますように、9年間の系統的なカリキュラムの作成ということで今小学校では、総合的な学習の時間を使って地域の川について学習、地域の福祉について学習を進めています。それが、北方が進めている平和学習についても小学校から学ぶ機会を設けて系統的なカリキュラムを組むことでより深く学ぶことができると思います。

○9年間を考えたカリキュラムでやっていくということは、子どもたちに将来の夢を持てるようにさまざまな体験や経験の場を設ける機会が増えてくるのではないかと思います。その中で自分にあったものを選ぶことができると思いますので、いいのではないかと思います。安心・安全ということを考えますと、今災害が非常に多いので、例えば給食調理室を北学園と南学園それぞれに設けて片方が被災した場合にでももう片方が給食を供給できる仕組みを設けてはという意見も伺っています。

○安心・安全であるということが大事であると思っています。特に異学年交流の充実ということで、これは義務教育学校の大きなメリットであると強く感じております。今の状況を見たときに小学校6年生の学級が上手くいかない事例が多いです。最上級生なのにどうしてかと思われるかもしれませんが、最上級生だからこそ目標を見失ったりお手本となる姿が無かったりということで担任が苦しむケースが多くなっています。そうした時に、先ほどお話でも小学生と中学生、相互にメリットがあるというお話をされましたが、ここの書きぶりが低学年の児童と触れ合うことでという一例ですので中学校側のメリットとして位置づけられていますが、小学校側にも大変メリットはあると思います。今後具体的な取組みに期待したいと思います。

○これが実現できればすばらしい学校になると思います。先ほどお話にもありましたがグローバル社会になった今、英語教育の充実は是非行っていただきたいと考えています。また、子どもたちが実社会でどう生き抜いていくのかということも教えていかなければいけないのではないかと思います。知識をつけることも非常に重要なことではあると思いますが、常識を持って生活していくことが大切であると思います。最近のニュースにもありましたが東京でハロウィンが行われていますが、ゴミのポイ捨ての状況、軽トラックをひっくり返して暴れるなどひどい状況でした。今後は常識ある大人として生活していくために、子どもの頃からしっかりと教育を施す必要があると思います。設備導入の面では財源の問題もありますが、教育というものはすぐには成果が見えないものだと考えています。一義的にはテストの点数として表すことができるかもしれませんが、子どもが卒業した後にその子どもがどのように生活していくのか、問題を起こしたときに何処に問題があったのかなど最終的にはいろいろな検証の仕方や考え方があると思います。国の方も道徳を教科として取り入れましたが私の時代には道徳というものは知らないうちに親が教え、周りが教えという状況で身に着けていったものであると考えています。今は道徳を大切にする考え方が希薄化していると感じています。そのあたりも力を入れて取り組んでいただきたいと思います。また、先ほどもお話がありましたが、授業についていけない子どもたちを何処で重点的に指導を行っていくのかということも課題であると考えます。家庭的に問題を抱える子ども、学力的に問題を抱える子ども、経済的に問題を抱える家庭、理由は多岐に渡ると思います。そのことから、小中学校の授業でどれだけ力をつけてやれるのかということも大切であると考えています。児童生徒数が1000人にもなる義務教育学校は非常に先進的であると思いますし、創るのであればすばらしい学校を創っていかねばならないと思っています。そのことを踏まえ今回の教育方針を是非進めていただいてすばらしい学校を創っていただきたいと考えています。

○母親の立場からも、だれもが安心・安全な学校であれば、子どもを安心して学校に送りだせる共に学びあえる学園ということでいいことであると思います。羽島市の桑原学園、白川村の白川郷学園の両方を視察させていただきましたが、先ほどもありましたが落ち着いた環境での安心・安全、異学年交流ということで中学生の生徒が小学生に教科を教えていた姿を見ると9年間を通して学年の交流もいい成果となるのではないかと思います。高学年の生徒も教えることで自信が持て、低学年の児童もお兄さんやお姉さんに教えてもらったということから、自分が高学年になった時に教えることができるという自信に繋がるのではないかと思います。説明のあった教育方針（案）はすばらしいものであると感じています。期待しております。

○北方学園が義務教育学校として発足となると岐阜県内では3校目になると思います。特徴として全国的に見ても小中一貫校の開校は、過疎化・少子化の影響で多くの学校で統廃合が余儀なくされており、そういった行政上の理由が主な要因となっているわけです。一方、北方学園構想はそういった問題ではなく、小学校、中学校が6年制、3年制に分かれている意義が現在では形骸化してきており、そのことに対して義務教育の9年間は教員又は地域で子どもの成長・発達を支えていくべきものだ、ということに私たちが正面から向き合っているところに北方学園構想の特徴があると思います。

また、だれもが安心して学びあえる学園という点では、この安心というものは外から与えられる安心だけではなく、子ども同士がお互いを認め合うということが大切です。そういう学校にいかにしていくのか。そして、そのために教員がどのような組織的な取り組みをこれから模索していくのかという意味合いが入っていると思います。先ほどもお話がありましたが、他校から見ても一つのモデルとなるパイロットスクール的なものにしていける可能性あるのではないかと思います。

もう一点大切なことは、これから二つの学校ができるということです。基本理念・方針は2校とも同じですが、北学園と南学園はよきライバル関係を構築していくことが理想です。資料にある内容をそのままそれぞれの学園が行っていくということではなくて、北学園・南学園それぞれが学園の事情・状況に合わせて独自の文化を教育文化・学校文化を創っていったいくべきで、同じものであってはいけないと思います。お互いに切磋琢磨していくことが大事で、資料に書いてある方針は大枠ではありますがそれを基にさらにそれぞれの学園でより具体化し、独自のものを創っていった欲しいと思います。その出発点としてここに書かれているものがあるのだと思います。

※以上の協議の結果、教育方針については、原案を基本として進めていくことを委員会の方針として決定した。

2. 北方学園構想について

・来年度以降の検討組織（案）について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○人員構成について21名予定している、6部会ありますが、各部会に21名行くわけでないのですか。部会はある程度人数を絞るつもりはありますか。

⇒部会としては一部会5～6名程度で、実務レベルの協議を行う場とする想定をしております。また、各部会で原案を作成していただき、上位の北方学園開校準備委員会にて報告・調整していただくイメージで考えています。例えば、開校準備委員会では学校運営部会が考えた教育方針に対して、施設部会で検討する学校施設の詳細がうまくマッチングするように調整を行うような想定をしています。そのため、北方学園開校準備委員会は人数が多くなりますが、各部会はそれほど多くならないようにと考えています。また今後、協議が深まっていけば、北と南を分けて協議しなくてはならなくなることも想定されますので、この方法で決めたら4年間そのままで行くということは考えていません。例えば2年経過した時などに必要に応じて組織を改めるなどの事項も想定しています。実際、教職員などの異動もありますのでそのような見直しも随時必要であると思っています。また、部会によって協議内容のボリュームが違うこともあり、実際の部会の運営方法には様々な課題があると思います。

○準備委員会のメンバーが複数の部会に所属することはあるのですか。

⇒全体の準備委員会の委員が21人を6つの部会に分けるわけではありません。あくまでも準備委員会の委員が21名であるということです。しかし、各部会長が準備委員会に参加していただく想定ですので、そのメンバーについては重なる部分であります。基本的には準備委員会と各部会の構成メンバーは別にすることを想定しています。

⇒準備委員会のメンバーは各組織の代表を想定しており、全体を共通理解して全体を把握したり方向性を考えたりします。部会の方は学校運営部会についてほとんどは教員が中心となって教育課程を編成したりすることを想定しています。校名・PTA部会についてはPTAや地域の方々が中心となって進めていただくことになると想定しています。部会はそれぞれの詳細について詰めていくところですのでそれを準備委員会で長が集まって確認・共通理解を図ったりすることになります。そのため、準備委員会のメンバーがそのまま部会に行くことは想定していません。

○いよいよ来年度からとなってきましたと、学校運営部会の中で教育目標であったり、教育課程そのものをどのように編成していくのかということとか行事をどのようにしていくのか、それこそ具体的には運動会・体育祭をどのようにしていくのか、修学旅行、宿泊を伴う研修などで小学校5年生から中学校3年生まで系統立ててどのように行っていくのかということを検討しなければいけないのですが、北方小学校と北方西小学校は中学校から近いので物理的にすぐ会議を開くことができます。中学校の教頭も訪問しやすいといった点もあります。しかし、北方南小学校には中学校の先生がいないので学校の様子を見ながらかつ中学校の先生がある程度入って早めにやっつけていかなければならないのではないのかなと考えています。同じものを2校分考えるのであれば1つ考えればいいのですが、学校の規模も違えば、地域の願いも違うのでそこには地域性を出す必要があると思います。同じ町内であっても2つの学校なので北方南小学校が大事にしてきたことを中学校でも大事にしていかなければならないと思います。そういう意味でも早めに取り組む必要があり、学校の方はただ指示を仰いでいるばかりではなく主体的に進めていかなければならない、ということも内部でも話し合っています。

⇒例えば、先行的に取り組んでいく課題などを抽出するなど、検討すべき課題を整理して考えていく必要があると思います。

○教員 WG に関する記載がありますが、学校運営部会の運営と平行して例えば、北と南のそれぞれの教員から出てもらって、その辺りについての考え方をできるだけ学校運営部会に反映させるようにするなど、北と南のそれぞれの状況を反映させていくということにおいての教員 WG は大切であると考えます。

○学校運営部会での協議では、学校の教育目標であったり学校行事などを検討しなくてはならないため、校長・教頭・教務主任の協力が必要だと思いますが、私から見ても仕事一杯でお忙しいのではないかと思います。特に北方町は先生の出入りが激しいので先生方も3年間とか短い期間で異動する方が多いです。そのため、教員 WG の位置づけと同様に、学校では指導部会という形で小さな集まりが毎月定期的に行われていますので、それをどの先生も学園構想に関するアイデアを出す場として位置づけ、色んな先生のご意見を聞いた上でそれを集約して学校運営部会にて提案していけるようにすれば多くの先生が関わることができ、北方のこれからの学校をこうして行きたいという願いを盛り込んでいけるのかなと思います。是非そのような場を設けていただけるといいのではないかと思います。

○一部の先生で創っているのではなくいろいろな先生が参画しているという実感の持てる場であるということがとても大事だと思います。手間がかかるか

もしもかもしれませんがじっくりそこで意見を出しあう。基本方針の所で、子どもが考えを出し合って深い学びとありますが、それをそのまま教員や地域の人々に主語が変わっても同じことが言えると思います。

○「PTA・学校運営協議会部会」というのはこれからの学園運営協議会のあり方を検討していくという意味ですか。学校運営協議会の存在は重要でいろいろなお支援をいただけたらと思います。そうしますと学園設立までに運営協議会自体も定期的に行われると思いますが、そこのかかわりというものが、長の方が委員会に見えるのでそこでご意見を頂いてまた、運営協議会に戻って進捗状況をお伝えするそのようなイメージでよろしいでしょうか。

⇒基本的に PTA・学校運営協議会部会は今後学園が、義務教育学校になった時に PTA は4つあるものを義務教育学校1つにしていくことであったり、今、PTA と学校運営協議会が役目として重なっている部分もあったりするのでそれを整理して、できる限りスリム化して効果的な組織にしていくなど、PTA・学校運営協議会の組織や運営のあり方を中心に協議する想定です。当然 PTA の方々の意見や運営委員の他の意見の方々の意見も、先ほどもあったように子ども達が主体になったり先生が主体になったりと同じようにそれは工夫しながら、中身としては新しい学校になった時の組織運営をどうやっていくのかということを中心に考えていく部会として位置づけています。

○4つある PTA の中でお金の問題があります。このこともこの部会で検討することになるのでしょうか。

⇒新しい組織をどうしていくのかということ議論する部会であって、今の単Pのお金に関しましてはばらばらなので、その処理は今の PTA が中心となっていくことになると思います。将来的なことについてはこの部会で協議しますが、今のお金の処理については今の PTA で考えていく必要があると思います。

○逐次情報を流していくということがありましたが、建物を作って学校の先生方に運営方法を考えていただくことの方がはるかに多いのでその後、我々がどこかで関わることになると思いますが、運営方法などが決まればなかなか議論できないと思います。

⇒部会によって仕事の量や協議期間が違ってくると思います。施設部会は協議内容が多いですし、学校運営部会も先ほどおっしゃられたとおり決めることが多くてひとつひとつが子どもに関わる重要なことなので人数的にも回数的にもかなり大変となります。先生方にとっては今の学校運営にプラスアルファの仕事になるので、事務局としても支援策を考えなければいけないと思っています。また、先ほども意見がありましたが北方町の場合3年で異動してしまうことが多いので、当初部会に参加した先生が開校時に誰もいない可能性もあります。し

かし、それをなくすための学園構想でもありますので、そのあたりは組織的に引き継いで当事者意識を持ってお願いしたいと思います。

○異動する先生もいると思いますが、北方町に戻ってくる先生もいるのではないですか。

⇒北方町では少ないのが現状です。北方町では100人ぐらい先生がいますが2割～3割程度しか北方町を本拠地として勤める先生がいなくて、その他は帰ってこない先生が7割～8割程度になっています。中学校が1校しかないということは中学校間で異動できないということであり、中学校の先生は必ず外に出なければいけないことになります。自分の子どもが入ってくるということもあり、北方町に住みながら北方町では勤めにくいという状況もありますので今回の学園構想はこれを解消するという意味もあります。

○そうすると、学園構想を進めることで長期にわたり北方町で勤めることができるということですか。

⇒例えば、中学校の先生が北学園に7年いた場合、次は南学園に異動することができます。そしてスキルアップしてまた北学園に戻ることはありえます。町外に出たとしても北方町を勤務の本拠地とするのであれば長くいることはできて、自分の子どもが入学してきた場合、子どもがいない方の学校に異動することができます。

○いずれにしてもモデル校になると思います。先にもありましたが国の施策で少子化などの問題で学校が統廃合されていく中での統合整備ですが、そういう意味では北方町はどうしても急いで行う緊急性があるわけではなく、それぞれの学校文化の継承には問題もあると思います。

○問題があるということではなく、全国的に6年制・3年制という制度が硬直化していないか、子どもの発達段階の加速化の中で今の枠組みでいいのか。これは学会でも非常に大きな問題となっています。発達に即した学校のあり方について考えた時に一貫性や接続化といったことがとても大事な問題で、小学校の先生は小学校だけとか、中学校の先生は3年間だけ責任を持つという考え方ではやっていけないと思います。子どもが発達する9年間に即した学校づくりをどのようにしていくのかということに北方町は正面から向かおうとしていると思います。全国的に少子化が進んでいるので、それに対応して行政が動くということも大事なきっかけではありますが、北方町の場合は少子化のみが要因としてではなく、発達に即して子どもをどうとらえてそれに即して安心できるような、子ども達がじっくりと学べるような学校をどう創っていくのかということでこの案が出てきていると思います。研究者から見ても注目すべき取り組みだと思

ます。

○どうせ創るのであればモデルとなる学校にしたいと思います。

⇒最初からモデル校としてではなく、結果としてモデル校にできる可能性はあると思います。

○部活動部会についてですが、先ほどの説明では体力づくり感覚でともいわれていますが、個人競技は個人の問題だと思いたしますが、団体になるとなかなか一つの学校では人数が集まらず組織できない可能性が考えられます。少し前は、ソフトボール部の人数が少なくて試合ができなかったということも伺っています。今は野球部の人数が少ないということも伺っております。学校が分かれたときに共同で部活動を運営するなどの検討は必要ではないかと思いたします。練習場所についても今の中学校のテニスコートが離れたところにありますが、公式試合ができる大きさのテニスコートが無いとまた移動していかなければならないと思いたします。現に明治製菓や本巢市のテニスコートをお借りして練習していると伺っています。その辺りの整備の検討も行っていただきたいと思いたします。できれば一つの目標となるように力を入れて子どもたちも優勝するぞといった意気込みがもてる部活動環境の整備をお願いしたいです。

⇒部活動については様々な意見があります。例えば、人数が足りなければ合同チームで出るということもありえますが、単独で出場できるのであればそうした方が主役として活躍できる子どもが増えることとなります。練習場所や運営方法についてはこれを機に部活動改革や働き方改革の問題もありますので、どの子どもにとってもいい方法を探っていきたいと考えています。国の制度でも、部活動指導員制度、社会人コーチ制度などがありますし、いろいろな改善策が出てきていますのでうまく活用できるよう考えていきたいと思いたしています。

○野球でもドラフト指名されると1億円が入ってくるという話がありますが、指導者の力量も大事であると思いたします。指導者への謝金をケチっていない。優秀な先生を積極的に集めて欲しいと思いたします。

○今回をきっかけとして、今までの教育の課題や良い点などをもう一度洗い直していくよい契機になるのではないかと思いたします。

○保護者の中でも心配されている方がいろいろ見えますが、新しいことが始まる時というのは先生方も大変だろうと思いたします。学校でも子どもたちのためにも良い構想を造りたいと話合っていますが、今までと同じ人数で新しいことに乗り出すということは無理が生じることもあるかと思いたします。新しいオペレーションに必死になってしまつて結局問題が起きてしまつてなにをやっている

のだ、ということにならないようにだけは注意しなければいけないと思います。また、PTAに関しては、とても小さい町でPTAと先生との距離が非常に近くて上手くできている町だと思います。これを機にもっともっとPTAの協力を先生方と一緒に教育委員会とやっていけたらと思っていますのでよろしくお願い致します。

※以上の協議の結果、来年度以降の検討組織（案）については、原案を基本として進めていくことを委員会の方針として決定した。

2. 北方学園構想について

- ・意見書の構成について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○これをまとめて2月に意見書として提出するのですか。

⇒12月の会議では原案を基にご協議いただき2月の会議の際には完成品ということでご確認いただきたいと考えています。

○構成に関してはこの順番立てで記載した方が読み手としては読みやすいのではないかと思います。現状がどうであって義務教育学校がどういう制度であるのかといったこと、町としてどのような体制をとって何を目指すのかということで大変分かりやすく論立ててありますのでよろしいかと思います。ところで、この内容だと文章ばかりにはならないですか。

⇒イラストやイメージ図を入れながら構成したいと考えています。

○冊子的なものになるのですか。

⇒参考資料などの量もありますのでそれなりのページ数にはなると思います。

○今後部会ごとで活動していく際の手がかりとなりますか。

⇒そのとおりです。

○意見書として提出するということは、意見書として許可をいただくということですか。

⇒検討委員会としてこの方向で進めていくとよろしいと思います、という意見をまとめたものを町長に渡すということになります。そして、今後町が詳細を詰めていく際には、意見書の内容に則って進めていきます。という位置づけになります。実際には、先ほどご説明した開校準備委員会に繋がっていきます。頂いた意見を基に進めていくというイメージとなります。意見書の内容は学園構想の基本的な考え方になるという位置づけになるということでもよろしいかと思いま

す。

※以上の協議の結果、意見書の構成について、原案を基本として進めていくことを委員会の方針として決定した。

2. 北方学園構想について

・構想全体の総括について

委員の主な意見は以下のとおり

○配置図(案)を見たときに、北学園の真ん中の道路の問題などがあると思ったので、先日、町議会の全員協議会にて他の議員の意見を聞きました。その内容を報告をさせていただきたいと思います。学園構想自体には私は当初から賛成しております。9月の議会におきまして、学童保育棟の設計委託料400万円の補正予算案が提出されこの案につきましては私自身反対をさせていただきました。反対した理由としましては、この学校構想検討委員会の中でソフト面については協議がなされていますが、総事業費に関する詳細な説明が議員にない状況であります。その中で学童保育棟の建設にとりかかりたいというものであります。総事業費が分からない中で事業を進めようされましたので反対した次第です。次に、給食調理場については私だけではなく何人も議員から質問が出されており、課題となっていると思います。スケジュール表を見ますとどのような形かは分かりませんが、後2年で給食調理場が建設されるという予定されているということであります。スケジュールにもありますが給食調理場建設も含めた中でこの進め方についても一度お伺いしたいと思います。次に、小学校の大規模改修工事についてですが、大規模改修工事を行った時と改築した場合のコスト面を考慮したうえの大規模改修工事を選択したのかご意見を伺いたいと思います。また、全員協議会におきましては小中学校の間の道路を封鎖することについて強い意見が出ました。道路封鎖は同意できないという意見が出ております。長寿命化工事を行うことによって建物が後何年もつのかという意見も出ております。校舎としては建て替えた方がいいのではなかという意見も出ております。大規模改修工事を実施するのであればコアを抜いてコンクリートの劣化状況を把握した上でのことなのか。これについては根拠となるデータが示されていないことから、建物の状態を把握せず大規模改修工事に着手しようとしているのであれば反対するという意見も出ております。あと、予算的なことですが、執行部は概算予算を把握しているのか。資金計画はできているのか。という意見も出ております。給食調理場の問題について計画より遅れておりますが、事務局からは早急に取り掛かりますという答弁を受けておりますが事業が遅れていると感じており、私自身も早急にとりかかっていただきたいと思います。みなさまからも要望していただきたいと思います。工事費については、設計段階に入ってから議会

に報告がなされると思います。今の状況下では検討委員会の方針について意見は出ていません。道路の封鎖についてはかなりの意見が出ています。この問題については町長にも地域住民と共同して構想を進める中で各自治会の理解を得なければならないと意見しておりました。その話も自治会の方へはどのような形で道路封鎖の話を進めていかれるのか。そういったこともお聞きしたいと思います。何度も申し上げますが、給食調理場の建設についてはいつから取り掛かれるのかをお尋ねしたいです。

○議員の立場からご検討をいただいていると思います。道路封鎖の問題、給食調理場の問題があると思います。

⇒行政として答えるべきことと、この検討委員会で検討すべきことは整理して考えなくてはならないと思います。例えばこの平面図に関しましては、限られた敷地の中でよりよい学校にするためにはどうやったほうがいいのか、ということは検討委員会の中で検討すべき事項ですが、予算の詳細についてまでこの場で検討することは難しいと思います。

○それは分かります。しかし、その裏ではこのような議論がなされており予算が無ければ事業が進められないわけです。予算を無視して教育方針についてのみ議論しても実現することは無いわけです。議会は予算についての協議をこれから行っていかなければなりません。当面の課題としましては意見書が出るときに今の話で道路封鎖の話を地域住民に持っていったとき、十分議論がなされていなければ議員のせいになって議員が怒られてしまうので、議会としては慎重に進めていきたいと思っています。この問題は数名の議員から出ています。この事業を進めるためにも地域住民の利用状況等のデータを集めた上で理解をいただく努力をしなければならないと思います。懸念しているのは、意見書を受けたのでそれに沿って進めますと言われるとどうしようもないので、どこの段階においても地域住民の理解を得ることを進めていかなければならないと思います。2月に意見書を出されるのであれば、まだ10月ですので今のうちから地域住民に説明していただかないと理解は得られないと思います。

⇒住民全体への説明は意見書が出た後など、ある程度内容が定まってからでないと難しい面もあると思いますが、学校の近隣住民に対する説明は、早い段階から進めていく予定をしています。

○もう一点申し上げたいこととして、今のコミュニティーセンターは公民館の代わりに補助金がいただけたということで建設したわけですが、先日のハロウィンのイベントがあつて様子を見てきました。入り口からして靴が散乱しており他人の靴を踏まなければ入っていけないという状況で、建物の面積的にも狭いという話はしましたが予算の関係上広げることができないことから1億円程

度で建設されましたが結局使い勝手が悪くなっています。私が学童保育棟の予算に反対した理由としまして、学童保育棟が敷地の北西にあり非常に狭く、狭い場所であり送迎時における車の出入りは危険と思われるので反対しました。この検討委員会の中では予算のことについては話す場ではないかもしれませんが、そのようなことも含めて学園構想に対して意見を言いますので嫌な発言ではありますが、ご承知おきいただきたいと思います。

○構想進めていく上では、予算などさまざまな条件や制約があると思います。情報をいただきましたのでその辺りも承知した上で、議員には検討委員会ではこのような話を進めているということを議会の方にも十分ご説明をいただき、それを支援する形で進めていただきたいと思います。どうか議会代表のお二人には是非ご協力・ご支援いただきたいと思います。

○今道路の話をしていただいたところで勝手なことを申し上げますが、学校側の立場からしますと一つの学校になるということを考えると真ん中には道路がない方が絶対にいいと思います。やはり子ども達がここを行き来するということが一つあることと、小学校と中学校の児童生徒全員を全職員で指導にあたりますので物理的に学校が分かれているという状態にはしたくないと考えています。地域の方々の生活道路として使ってみえる道路ですが10年20年先を見据えてなんとかご協力いただき、いずれは一つの学校になってよかったなと皆さんに言っていただけるような学校にしていくことでご理解をいただくしかないのかなと思います。安全面であったり、子どもたちの動き、教職員の動き、学校教育活動を考えたときには校舎をつなげていただいて管理棟が真ん中にあるという配置が一番学校の形としてはありがたいと思います。

○道路のことについて地域住民は非常に困惑しています。そういうこともありましたので、以前、町には地域住民に早い段階で説明をして理解をいただくようにと意見しましたが、検討委員会の意見がまとまる前では十分な説明が出来ないため、わざわざお集まりいただいても具体的な話ができなくては申し訳ない、という返答でした。まとめてしまってからでは遅いので、同時進行をしていく必要があるときは平行して進めなければいけないと思います。交通量が少なくても封鎖することで不便になるという意見があれば謙虚に受け止める必要があると思います。意見書を出すまでには地域住民に説明をして了解を得た中で意見書にしないと、ここで決めたから封鎖しますということになると大変なことになると思います。学童保育棟の建設については、国でも進めているので北方町においても3、4名の待機児童がいると伺っていますので建設については反対ではないです。必要な施設ですので造っていった方がいいと思います。何平方メートルの建物になるのかは分かりませんが、学童保育棟を先行させるのか、給食調

理場を先行させるのかという議論になると我々からすると給食調理場を先行して着手できないかという思いがあります。

○学校の安全安心ということを考えると道路があるのはどうかという話があり、それと地域の方々との意識のずれといいますか、その辺りのところを今後詰めていく必要があると思います。

○小中学校をつなぎたいという思いは分かります。しかし現実的に生活道路が封鎖されてしまいます。地域住民に理解をしていただく作業を進めないことについて理解ができないと申し上げているのです。なぜ躊躇しているのですか。
⇒先日、議員から意見を頂いたこともあり、近隣住民向けの説明会を行う予定にしております。11月には説明会を開催し、学園構想の趣旨などを説明して住民のご理解を頂けるように努力しますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

⇒意見書には、地域の住民の方、様々な方の理解を得ながら進めていくことが大切であるという内容も盛り込みたいと思います。先ほど学校施設配置のイメージと申しましたが、詳細設計もまだこれからで、このイメージどおりに造るところまではまだに詰まっていない部分もありますので、実際の施設整備の際にはこういった点に配慮して進めていくべきものという意見を反映して意見書を構成したいと考えています。

○前々回の委員会で、学校を改築するときに勤務していた関係でいよいよ学校を建て替える際に保護者の方々は通学路の心配をされたというお話をさせていただきました。そのときは時期尚早かと思いましたが、だんだん具体的になればなるほどそのような心配事が増えてきます。子どもは何をするのか分からないということがあります。また、生活環境が変わったときに本当に安全に学校生活ができるのかという親の心配も出てくるのではないかと思います。「安全」は学校において一番に配慮しなくてはならない問題です。住民の理解を得るためには、生活が変わって子どもがどういう動きになるのか。どこをどう使うのか。頻度はどのくらいなのか。など、具体的なシミュレーションをお示しいただけると説得力が増すと思います。

○小中学校を一貫したものとしてとらえていくということは今後21世紀の教育の大きな方向性であろうと思います。今は、6・3年制ですが今後、形の上では6・3年制であったとしても4-3-2年制にするなど5年生・6年生・中学校のその接続をどう考えるのか。ここも学校教育の問題です。先ほどもお話があり、6年生の有り方について問題になりましたが、これは全国的にも大きな問題です。4-2-3年制などいろいろ考案されています。ドイツは古くから小学校

は4年制です。試行錯誤の上でそうなってきたと思います。私たちも子どもの発達がいろいろ変わってきている社会的状況の中で、今回の義務教育学校というものが法的にも整備された上でそれを契機にして考えていくいい機会だと思います。今後北方町は児童生徒の発達に即した学校をどう創っていくのか。研究者の立場からしても注目していきたいし、一緒になって考えていきたいと思います。それに伴って教員の取組みや意識をどう変えていくのかということも大変重要なテーマになってくると思います。教科担任性や高度なものを小学校のうちからもそこに落とすしていく、あるいは学びなおしの機会があるなどいろいろ出てきています。教科担任制というものが出てきたときに、一方で中学校の教科担任制が軸になると子どもとの接点が弱くなるとか学級作りという視点からだと弱くなるなどの側面も出てくると思います。中学校の教員はその教科しか担任していないので子どもの全体像が見えないというところもあります。それは中学校教育の今までの問題であったと思います。しかし北方町の場合は、小中の教員が協力して中学校の教員が自分の教科だけではなくて他教科や小学校の先生の考え方も視野に入れて子どもに関わっていく、そこに新しい中学校といますか後期課程の新しい方向を作っていくということに繋がっていくのではないかと思います。教科担任制だけではなく学年担任制などいろいろなものと重ね合わせながら子どもの教育にあたっていくなどいろいろ模索されていくといいのではないかと思います。北学園、南学園それぞれでそういったことを考えていただくいい機会ではないかと思います。過去に日本でも様々な義務教育学校、小中一貫制について模索されています。教育長におかれましても様々な学校を訪問されて事情を探ってみえるようですが、先行事例も研究してみなさんと情報提供しあって考えていくことが必要ではないかと思います。国立教育政策研究所という機関が日本にありますが、そこは文部科学省の様々な政策を考えていく上での基礎的なデータを出す場です。その研究によりますと事前に十分に義務教育学校の構想であったり組織の有り方について具体的に見当たったうえで踏み出した所こそ、開校後の満足度が高いというアンケート結果がでているということが分かっております。そういった視点からしますと今後の部会や教員のWGなど、ネットで調べてみますと先行事例として、瀬戸市が小中一貫の義務教育学校を造ることについての資料を公開されています。それによりますとさまざまなワークショップを行いながら例えば、PTAのことについてどう考えるのか、様々な議論がなされています。一つ取り上げてみますと小中一貫校と地域の連携活動を想像してみようということで保護者14名と教員14名と瀬戸市教育委員会の職員を含めてそこでディスカッションした経過が載っています。外国語学習支援、英語などの支援についてどのように考えたらいいか、生活指導、図書館ボランティア、国際交流など様々な分野にわたって議論しているという状況がでています。このようなことを部会や教員WG 这样一个ところでやっていく必要があると思います。今は働き方改革という考え方がトレンドな

ので積極的な参加を思いとどまってしまうのではなく、新しいものを造っていくときにはやりがいがあるテーマだと思えますので、是非北方町のより多くの先生に関わっていただくことが必要でないかと思えます。話し合う中で北と南が考えていることが違ってきているなとか思うことがいいのではないかと思えます。1つの学校を造るのでなく、2つの学校が同時にできるということにお互いが自分を照らし出して、双方の学校のアイデアを取り入れてお互いにいい意味で切磋琢磨していく関係性を作っていく。それができてから始めるのではなくできる前からお互いに議論していくと大変いい学校ができていくと思えます。学校を造る課程に参画できることなどそんなにないので、そのところを丹念にやっていくことが岐阜県全体に対しても非常に大きな発信性のあるものができるのではないかと思えます。是非造る課程を大事にしてやっていく、造ってからその上でということではなく、造る課程においていろいろ教員・地域の方が関わってそこに参画してということが、きっとその後の自立した教師、自立した子どもを育てるといふそういういい文化で岐阜県全体に対して発信できるのではないかと大変期待しております。このところは大変大事なテーマだと思えます。2校がそろった校風になったらおかしいと思えます。ちょっとずれがあるということに意味があると思えます。そのずれを巡って、違いを巡ってお互いを尊重していくということがよりよい学校を創っていくことになると思えます。是非その辺りのところを大事にしてもらいたいと考えています。そのためにいろいろ調べてみましたところ、接続期をつくる、というお茶の水女子大学附属幼・小・中が一貫してどのような学校を創っていくのかということについての議論ですが、ここでもいろんなことが出ています。小中学校はいかにスムーズにいかにつなげていくか、ということが今まで議論されてきたと思えますが、それだけではだめだということが書かれています。なめらかな接続、これが大変大事だと中学校生活をゆったりとスタートできる配慮をする。しかし、そのなめらかな、スムーズな接続だけではではなくて、中学校は入っただけの充実ではなくステップアップしたという充実感を感じられるような段階も大事じゃないか。そんなことも書いてあります。この段差ギャップという、ギャップとして段差を考えるのではなく、お互い支えあいながらジャンプできるような適切な段差が必要であると。抽象的かもしれませんがそのようなことも意識しながら考えているということが書かれています。それから中学校の数学の先生が中学校のことばかりに目を向けていたけれども小学校の子どもがどんなつまずきをしているのかを考えることが大切ということです。この子が前向きに数字について学んでいけるためにどうしたらいいのかということで、一度小学校の教科書に戻ってそれを元にして中学校の教育を考えているという。そんなことがいろいろと書いてあります。小学校のころ算数が苦手だった子どもについて、小学校の先生と相談して考えていくということが書かれています。こういったことは非常に今後の北方町の具体的な姿の中で生かしていけるというかまさにそういう場の設

定が北方町ではできるのではないかと思います。造った後には新たな課題が出てくると思いますが、これからの構想の段階からそういったことを先生同士で話し合っただけで論じていく必要があると思います。そしてできてからも実践と繋げながらよりよいものにしていく、そんなことが必要じゃないかと思います。ですから小中接続、小中一貫などそのような問題は子どもの成長を支えるためにも教師自身の考え方が変わっていく必要があると思います。考え方を変えていくためには今回の制度設計がどのように充実したものにしていくのかということが、大きな基礎になると思います。もちろんその根底においては、予算や改修といったハード面も大事だと思います。北方町の教育というものを大きく深めていく大事な局面に接していると思いますのでみなさんの協力のもとに進めていきたいと思っています。

4. その他

次回の日程と内容についての事務連絡。

今回は、意見書(案)等について協議したい。開催日は12月20日頃を予定している。

第5回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成30年12月26日

午前9時30分～11時10分

場所 1階まなびの広場

会議の主な内容は以下のとおり

1. 座長あいさつ

おはようございます。本日は、年末のまさしく師走という言葉にありますようにお忙しい時期にお集まりいただきましてありがとうございます。暖冬とも言われていたましたが、寒さもいよいよ厳しくなっている時期ですが、皆様にはおかわりなくご活躍のことと思います。今日は第5回ということで、いよいよ意見書の作成について検討をしてみたいと思います。また、後ほど事務局のほうから11月に行った説明会の様子の報告もあるということです。特に意見書に関しては今年度一年皆さんと検討してまいりました内容や、皆さんの学園構想に対する思いや願いや夢を具体化するために、北方学園の学校をどうやって作るかということが非常に周りからも注目されていますし、北方の子どもたちをどう育てるかという非常に重要なテーマがございます。それだけに、忌憚のないご

意見を頂きまして、実りある協議ができますようにどうかよろしくお願い致します。

2. 北方学園構想について

説明会での意見等について、事務局から説明
質問・意見なし

意見書案について、事務局から説明

1章について

○3節の中で、義務教育学校の利点ということで私自身が実感していることですが、豊かな関わりというところで、子どもたちがこれまでより幅広い活動が出来るという点ですが、実際に今子どもサミットの日など校門のところでやっていますが、北方小学校と北方中学校は隣同士ですので、特にこの日によく見られる光景ですが、中学生の3年生と、小学校低学年の子たちが触れ合っている姿を見てみると、大変ほほえましく好ましい人間関係がこういった場で見えてきているように感じます。6年生の子たちにとっても、中学校に上がるときに、先日入学説明会を行いました、その後で出る意見や感想の中には、まだ義務教育学校にはなっていませんが、中学校1年生になるというよりも7年生になるつもりで来てほしいという話をしたところ、子どもたちの意見の中に「1番下になるのではなく、小学校でしっかりやってきたことを続けて発揮したいという気持ちになった」という意見がありました。そういったことを考えると、小・中が接続というか一貫になることが、学年のふれあいや子どもたちの成長にとって大きな意味があるのではないかと感じています。

○義務教育学校は、制度的にも法的にも位置付けられているのですが、今後人口減少のもとで子どもの数が減ってくるので、小・中学校を一緒にすることは地域の人たちも理解がしやすいことから、義務教育学校の設立に上手くつなげていっているという事例はあります。それは、私も重要な方法ではないかと思っておりますが、北方の場合は9年間を通して「子どもを育てていく」、「子どもの発達を支えていく」、そのところを純粋な形で考えています。義務教育学校は、子どもの成長にとって9年間という見通しの中で育てていくことを小・中の接続の面から考えていて、そこがこれまでとは違う発想だと思うのです。その点が非常に大事なのではないかと思えます。まずは、教員の意識が変わっていく学校にしていくことです。

今までいろいろな学校を回ってきて、事務局や委員で義務教育学校の利点を考えたことや、いろいろな文献等を手がかりにしながら考えたことを6ページに6つほど出してありますが、子どもの育ちとともに教員の育ちという点が

大切です。中学校になりますと、どうしても進路指導などに目が行きますが、実を言いますと、小学校にも目を向けながら中学生を育てるということが、今後、教員の力量形成、教員の視野を広げるという意味で日本の教育の中で非常に大事なことになっていて、それが叶うのではないかとそのようなところが、この義務教育の利点の中で教員の育ちと子どもの育ちの2重構造になっているところに大きな意味があるのではないかと考えています。

○検討委員会の意見の中の、学校4校を維持していくことと、改築して2校にかえていくというお金のメリットのことを、もっと強調していくといいのではないかと思います。一般の人にはそのほうが解り易いのではないかと思うのですが。

⇒今後の専門部会で協議していく中で具体的なことが決まっていく部分もあり、金額的なことを詳細に記述することは難しいですが、おおよそいくらかの削減効果を想定しているのかという程度の内容なら加えることができると思います。その辺も含めて何らかの記述を加えたいと考えております。

○建築業者が北方は5年後こういう形になりますよと家を建てる条件として、学園構想の宣伝をしているようです。今まで栄町では、区画整理をしてかなり家が建ってきているが、去年までは、2世帯・3世帯だったのが、今年に関しては12世帯家が建ち、全部が完売して、11月中から3月までに引越しが完了するという事です。業者の宣伝の効果もあります。家が増えて人口減少に歯止めが出来れば良いと考えています。同時に南のほうも開発されます。南も素晴らしいところで、小学校の運動会等に行きますと、北は北の、南は南のよさがあり、南に関しては、道徳心が素晴らしい学校になってきていることを感じます。今後は、業者の宣伝等も利用しながら、家が新しく建っていくと、人口減少の若干の歯止めになると思っています。

○6ページの義務教育学校の利点についてはここにまとめていただいたとおりでと思うのですが、若干の心配事として教員の指導力向上が一番最初に出てきてしまうことにちょっと引っかかりを覚えます。子どもたちにとっての小中一貫9年間の見通しを持った教育であるとか、メリットはいっぱいあると思いますし、教員にとっての資質力向上の部分も確かにあると思います、それがはじめに出てくるというのはどうかなと思います。やはり子どもたちにとって一番というところを前面に出して行って、一番下の方に…下のほうだからどうでもいいということではないのですが、はじめにというのはどうかなと若干心配に思いました。

関連して3ページの下のところ、教員の指導力向上はいいのですが、優秀な教員の確保ということについても、もちろんそうなんですけれども、北方学園

構想の中で学校現場における現状の課題の一番最後のところに優秀な教員の確保も重要な観点です。とあり、ここに話が落ちついてしまうと、学園構想の踏まえていかないといけない課題は教員の指導力であるという印象が強くなる感じがします。これは表現上のことだけなんですけれども、学園構想そのものが優秀な教員の確保というところに落ちてしまうことへの不安を若干覚えるので、それを感じさせない表現を考えてもらえるといいのかと思いました。

⇒学校は当然子どもが主ですが、教育行政や学校の立場からすると、一番は教員の指導力によるところが大きいと思っています。教育は教員によるところが大きく、その結果子どもがよくなるため、まずは、教員が指導力を発揮して明るく勤めるというのがもっとも大切です。北方町としても、業務支援アシスタントを設けたり、勤務時間の管理をしたりとか、いろんな点で努力しており、それを町としては一番にしていきたいということがあります。また、優秀な教員の確保というところで県から加配を少しでもたくさんほしい、統合なんだからそれにみあう統合加配もほしいということは正直ありますが、それだけではなく、そこに書いてあるのは、今は中学校は1校ということで、中学校の先生は採用1年目から6年目までの教員と広域の人で3年ですぐに岐阜市や瑞穂市に帰ってしまうため、北方町のこれまでの伝統とかよさとか生徒指導の流れを充分知ってここで長く勤めていただける教員がなかなかいません。今後、中学校が二つに分かれることによって自分の子どもが入ってくるからほかで勤めるとか、3年で北方から出て行くということではなく、南の学園と北の学園とを行き来しながら長く勤めてもらったり、地域のことを知ってもらったり、北方中学校では音楽の先生は基本的に一人ですが、二つの学園になることによって2人になり切磋琢磨したりということで、教員の資質向上をはかっていきたいと思っています。加配があれば、北方町だけがよければ、ということではなく、この仕組みによってそれが出来ないかという思いであって、ご指摘のように表現上誤解される部分は考えていきたいと思いますが、そういった思いを書いているということです。

⇒ややストレートな言い方ですが、教員が外から入ってくるというイメージが入ってしまうのですが、実を言うと本質は北方で教員を育てるとというのが核心だと思うので、違う表現方法もあるかもしれないですね。北方で子供をどう育てるかということと、教員をどう育てるかということのをタイアップして考えていこうということなので、それを考えていくために義務教育学校というのは適しているのではないかと、そのあたりを含め考えると良いですね。

2章について

○学校の選択制度の導入について、どのあたりまで出来るのですか。もう少し煮詰まったところはどのように考えていますか。また、学区でということですが、北のほうの生徒数については良いですが、南のほうは生徒を増やしていきたい。

このあたりを考えていきたい。よその地域からの転入は出来るのか、地元だけで増やしていかななくてはいけないのか、そのあたりの取り組みが課題だと思います。

⇒具体的なことは今後つめていきたいと考えています。三つの視点で考えており、一つは、地理的なことで、南のほうへ通ったほうが近いというような、例えば明治ファルマの南側の地域など、通学距離が南のほうが近いのではないかとこの地域がどこがあるかというのを実際に歩いたりして調べたいと思いますが、今度の専門部会の中でそれをやっていきたいと思います。二つ目は地域と関係なく、北方中学校に通っていてちょうど中三になるときに南学園に行く子について、進学のことがあるので、そういう子に対する配慮です。地域とは関係なくその時点での学年のことがあります。もう一つは、生徒指導上の問題であるとか、どうしても学校に行きにくいという事情がある場合は通学先を変えることが出来るので、今度南と北になった場合にどうしても人間関係であるとか困ったことがあれば町の中で変わるということが出来ると思います。おおよそ以上の三つの視点から、学校選択制度のルールを作ってやっていきたいと思っています。

3章について

○全体的によくまとまっていると思います。これからこの教育方針の中で、英語教育の充実は本当に力を入れてほしいことで、これからの社会は英語なくしては成り立たないと考えて、先生たちのことを考えてあげることは必要です。近くの学校でも、外国人の先生が結婚をして日本に永住して教員免許を取って教えているという人もいますが、そういう人たちの受け入れ態勢を整えてほしい。それと同時に ICT の活用にしても、充実させていかなければならないし、桑原学園や白川郷学園との交流をしていくと生徒自身の視野も広がると思われるし、教育方針等もいいところを取り入れていくことでよいところをどんどん進めてほしい。

⇒英語教育は特色ある教育の一番に挙げています。ICT 教育も深い学びの一つとして考えています。特に英語教育は9年間一貫して一つのカリキュラムでやったほうが良いと思うので、その特色を出してやっていきたいと思っています。

○地域連携について、先日老人会にて学園構想について、いろいろな事をお伺いして来ました。グランドのことや施設関係のことなどです。

地域の方々は大変興味深く関心を持ってみえるので、老人会などにも情報を提供していただいて、一緒に精査して行って頂きたいと思っています。

○英語教育のなかで、英語力の検定に挑戦する姿勢を育てるという記述がちょっと具体的すぎる気がします。意図はわかるのですが、ここまで書いていいの

かということをおもうところです。また、2校あるということで良きライバル、2つの学園がよい意味でそれぞれの文化を築いていくということが非常に大切なので、ライバルというだけでなくそれぞれの学校の違いを育てていく中でライバルの部分が出てくるというような表現をあえて付け加えても良いのではと思いました。

⇒英語力検定については、今後入試の代わりになったり、子どもが主体的に挑戦していった欲しいということがあって入れましたが、コミュニケーション能力の向上とか、もう少し工夫した表現を考えます。ライバルということの捉え方は、具体的に考えているのは、今合唱集会を行っても、北方中学校が発表するとそれで終わりですが、2校になれば、「あちらの学校はそうやってやるんだ。こちらはこうだ」というように幅が広がるということで、違いを出して幅を広げたいという思いです。

4章について

○北方南小学校のグラウンドはどうしても狭いです。小学生と中学生が一緒になるときに、部活のサッカーで蹴ったボールが小学生に当たるようなことが起こらないかと、保護者は心配しています。フェンスの整備等いろいろと検討をお願いしたいです。

○職員室は、前期課程・後期課程が一緒になるということなら、表現上ですが、小学校・中学校の先生と言うのではなく、1年生から9年生ということにしていかなければいけないんだと感じています。検討委員会としての意見にある、義務教育学校のメリットである小中の教員の協力が確実に…という表現が若干引っかかります。義務教育学校なので、小中の教員という区分けそのものが違うんじゃないかと。前期課程と後期課程は別々ですかということになる。言われていることはわかりますが表現を考えた方がよいと思います。

⇒そこは、いろいろ悩んだところです。自分たちは前期課程・後期課程でわかりますが、一般の方々にわかってもらうためには…というところで考えました。ご指摘はごもっともなので表現方法を考えます。

○北学園の真ん中の道路閉鎖について、議会のほうでも話をさせていただいたが、管理棟を建てるということで、それについてはいたしかたないかと考えています。ただ、住民が利用していた道を封鎖ということに関しては、住民の理解を得て封鎖してほしいです。先日、説明会をして10名足らずの方が参加されたと聞いていますが、これで住民の理解を得たとは受け取れないので、多くの方の理解を得るような方法を取ってほしいです。また、校舎の大規模改修または長寿命化工事を計画しており、建て替える予定はしていないという記述がありますが、改築に係る予算額が25億くらい、当然新築にすると工事費が高

くなり130億という膨大な金額になるとの話もあるので新築は出来ないということですが、そのあたりは今後も検討課題になると思います。

⇒住民説明については、これからの学校は地域に愛される学校となり、地域とともに歩む学校とならなくてはならないので、丁寧に説明をしていきたいと思っています。

建物を新築するか改築かについては、一番大切なのは子どもたちが安心安全に学校生活を送ることのできる施設ということです。もちろん全部建て直してしまうのが一番いいのかもしれませんが、専門的な設計士等の意見も聞きながら、安全が確保できるというところを前提に進めていきたいと思っています。改築も大規模で行っていくのか一部を行っていくのか、そういったところでも変わってくるのですが、議員さんがおっしゃるところも配慮しながら進めていくつもりをしています。検討委員会としては、ここは新築、ここは改修といった具体的なところまでは踏み込めない部分もありますので、そういったところはお理解をいただければと思います。

5章について

○スケジュールの給食調理場のところは、今後どのような感じで検討していくのですか。施設の老朽化も進んでおり、少しでも早く作っていただきたい。

⇒スケジュールの真ん中に記述がありますが、各種申請事務に時間がかかることもあり、公聴会を開いたりして、そこをクリアしないとすぐに工事にとりかかれませんが、予定としては2019年の早い段階で申請事務に取り掛かり、2020年に本体工事、2021年に運用開始が出来ればと考えています。順調に進んだ場合、2021年4月に新しい調理場からの給食の提供が出来ればと考えています。最速で作れるように下準備を始めて、努力して進めていきます。

○教員ワーキンググループ・児童生徒からの提言というのがあります。ここが非常に大事だと思いますが、教員ワーキンググループというのは、他には記述がないのですが、どのように立ち上げていくのですか。

⇒主に準備委員会の中の学校運営部会で協議すべき事項はたくさんあり、6つの部会の仕事量は同じボリュームではありません。例えば、この学校運営部会の中で教員ワーキンググループを別に組織して、そこで補完的に話し合ってもらったりということが考えられます。この部会では教員が主体となって働きやすい・学びやすい仕組みを作っていかなければならないと思うので、そのような方法を考えています。

○今後のスケジュールのところの後期のところを見せていただいて、北学園は、北方小学校と北方中学校が33年度から職員室がひとつになる予定なので、検討部会とか、教育課程の編成等は非常に進めやすいと思いますが、南学

園のほうは小学校の先生しかいないので、教育課程とか、すり合わせていくことがなかなか難しいと思います。今後南学園のほうをどのように検討していくのかというところで中学校とのかかわり方について今後ご相談していただければと思います。

⇒実際には職員室が一緒になるところからスタートしては遅いところもあるので、31年度から小中の教員が一緒になって検討し、小中一貫教育というところをテーマに準備を進めていくという計画でいきたいと考えています。

全体について

○保護者の意見としては学力の向上を目指してほしいということを一番よく聞くので、そういう点では良くまとめられていてわかりやすいと思います。ただし、いじめの問題と、北方南小学校の子が中学校に別れるときにきっちりしたルールがないと混乱するのではないかという意見がありました。

もう一点、部活のことですが、どうしても二つに分かれるので、例えば野球部が二つになった場合、先生も2人必要となりますが、先生の働き方改革の流れに逆行するのではないかと思うので、この際に外部コーチなどを取り入れながら職員の負担を減らしながら、今までのようにしっかり部活もやっていただきたいと思います。

⇒すべて今後の専門部会で具体的につめていかなければいけないことで、特に部活は本当にいろいろなことが絡んで難しいところですが、よりよい方法を検討していきます。教員の働き方改革は、中教審の答申で45時間以上の残業はできないということが示されると、今までどおり教員が部活をやっていくのは難しいということがあります。また、教員の中にも部活をやりたくて教員になった人もいるので、そういう場合はコーチとして位置づけてやっていく事も大事ですし、チームを1チームで出るのが2チームで出るとかという事も中体連の規則にのっとって進めなければなりません。ただ、みんながレギュラーとして活躍しながら部活として親しんでということなら両方で出たほうがいいし、勝ちに行くということなら合同のほうが良いとも考えます。そのあたりは議論を重ねて今までどおりには行かないことがたくさんありますので、基本的には社会人コーチや、教員のコーチとしての位置づけということで北方にあった方法を考えていかなければならないと考えています。

○南のほうだと総合体育館もあるし、スイミングスクールもいくつかあるということを見るとそういうところを利用するということは考えると良いかと思います。また、全体的に駐車場はあるのかとも思います。さらに北方には、幼保や農林高校もありますので、そこからも意見を聞いていただくとよいと思います。農林高校はいろいろな活躍の場に出てきてもらっているので、今後も連携を進めていきたいと思います。

3. その他

次回の日程と内容についての事務連絡

意見書に関して、今日の皆さんの意見を頂き、誤字脱字等も直しながら、開いたスペースにはイラスト等も配置しながら次回には完成に近いものをお示ししてご確認いただこうと考えています。

また、意見募集を実施したいと考えております。一度内容を修正したものをお示しして、広く住民の方、一般の方からご意見を頂きたいと考えています。1月の下旬から2月の初旬ぐらいに実施できればと考えています。その内容に応じて訂正等あるかもしれませんが、それを踏まえて次回の委員会には最終的な意見書を皆さんにお示ししたいと考えております。

次回の日程についてですが、今度6回目が最後の委員会ということでこの一年の総決算ということになります。2月の開催と考えており、おおよそ20日頃を予定しております。

学園構想の周知は、主に広報きたがたやホームページなどで行っています。また、各種新聞報道もされています。ここには、広報きたがたに掲載された特集記事をまとめます。

2018年1月号

「北方学園構想」について



学校の教育力向上などを目的に、町内の小学校3校と中学校1校の全4校を、義務教育学校2校に再編する計画を進めていきます。

開校は、2023年4月を予定しています。また、校舎については、現在の北方中学校と北方小学校の場所に、(仮称)北学園を設置し、現在の北方南小学校の場所に、(仮称)南学園を設置することを検討しています。さらに、各学校の開校に向けての増築や改築、改修については、2021年度から始める予定をしています。

義務教育学校は、学校教育法の改正により、2016年度から設置可能となった小中一貫校です。学習内容は、現在の小学校と中学校の内容と同様ですが、9年間の義務教育を一貫して進めることで、中学校に進学する際の大きな環境の変化(中1ギャップ)の緩和を図ります。また、教科担任制の

段階的な導入や、9年間を見通した指導を行うことで、学力の向上も期待できます。これまでの小中学校体制を基本として、より教育力向上に向けた指導の可能性が広がります。

校区、制服、学校行事、部活動など、今後、決めなくてはならないことや、御心配な点もあつかいと思ひます。これについては、4月から学校構想検討委員会を立ち上げ、よりよい方向を目指して検討していきます。町民の皆様には、この構想に対し、ご理解やご協力をいただきますようお願いいたします。

北方学園構想に関するご意見やご質問等がありましたら、教育委員会へお問い合わせください。

☎ 教育委員会 ☎ 323-1115

2018年5月号

「北方学園構想」コーナー

北方学園構想とは

現在町内にある小学校3校と中学校1校を、小中一貫の義務教育学校2校に再編する構想です。

教育力の向上や学校運営の効率化などについて総合的に考え、町長が施策決定したものです。



本町では5年後(平成35年度)の義務教育学校の開校に向け、学識経験者や保護者、教員など様々な立場の皆さんから編成された学校構想検討委員会を立ち上げました。今後、6回(予定)にわたりさまざまな検討を重ねていきます。

去る4月23日に第1回目の会議が開催されました。会議では、岐阜大学教職大学院の石川英志教授が座長に任命され、事務局より北方学園構想の概要についての説明などがありました。今後会議の詳細については来月以降の広報にてお知らせします。

なお、今年の町民対話集会において、北方学園構想に関する説明もさせていただきます。ぜひご参加ください。

北方学園構想コーナー

義務教育学校とは

小学校と中学校の教職員が、連携して子どもたちを育てていく仕組みの学校です。

9年間の義務教育期間内で学ぶ学習内容は同じですが、小・中学校の垣根を越えて連続性・系統性のある指導を受けることができます。

【現在】

中学校 3年間
小学校 6年間



【学園構想】

義務教育 学校 9年間

第1回学校構想検討委員会が開催されました

去る4月23日に第1回北方町学校構想検討委員会が開催されました。会議では、事務局より北方学園構想の概要や今後の委員会日程についての説明などがありました。また、今後、学園構想を検討していく際の参考資料とするため検討委員会としてアンケート調査を実施することや、次回（6月）の委員会では、アンケート結果の報告のほか、学校区の設定や学校施設の配置に関する協議を行うことが決定しました。

○委員会での主な意見

- ・大きな経費が伴うので、財源問題を十分に検討していく必要がある。
- ・今後の町づくりや都市計画も視野に入れていかなければならない。
- ・既に開校している義務教育学校について、先進的な事例も含めて参考としたい。
- ・この会を進めていく上で保護者、住民の方への情報公開が大切である。
- ・教職員が働きやすい環境を作っていただきたい。



▲検討委員会の様子

アンケート調査にご協力ください

今後、北方学園構想に関する具体的な協議を進めていく中で、期待する効果や検討課題などについて、住民のみなさんからのご意見を頂きたいと思っております。

アンケート用紙は、庁舎1階教育委員会及び生涯学習センターきらりの窓口に用意してあります。また、町ホームページの北方学園構想コーナーからも印刷できます。調査にご協力いただける方は、6月22日（金）までに窓口にお持ちいただくか、メールまたはファックスにてご提出をお願いします。

お問い合わせ・アンケート提出先

教育委員会 学園構想推進室

☎ 323-1115 FAX: 323-3890

メールアドレス: kyouiku@town.gifu-kitagata.lg.jp



「北方学園構想」コーナー

なぜ北方町で義務教育学校を開校するの？

先月号の広報で、義務教育学校の仕組みについてお知らせしました。
 今月は、北方町で義務教育学校を開校する理由についてご説明します。



どの子ども安心して学び合えるために

北方学園構想は、「どの子ども安心して学び合える」教育環境を整えることを目指して進めている構想です。
 4つの小中学校を2つの義務教育学校に再編することにより、次のような良さがあると考えています。

●安心して中1に進級

中1に進級するときに、同じ学校に自分のことをわかってくれている先生が何人もいます。中1で途切れることなく、連続して自分のよさを発揮できることが期待できます。

●小学校からの専門的な授業

小学校の高学年から徐々に教科担任制を行うことが可能になります。特に、音楽や図工など、歌声や作品にその成果が表れることが期待できます。また、学習計画も9年間で立てるため、連続したスムーズな学習が期待できます。

●指導体制の充実

中学校が2つに分かれることにより、中学校の先生の人数が増えます。また、中学校の先生の町内での人事異動が可能となり、北方町に続けて勤務できる先生の人数が大幅に増えることが期待できます。地域事情に詳しい先生が増えることで、より実態に即した指導ができるようになります。

●落ち着いた学校生活

小中一貫した生活ルール、異年齢交流活動の充実、小中の生徒指導連携の強化、9年間を通した子ども理解などにより、より落ち着いた学校生活が期待できます。

●特色ある教育の実施

9年間の一貫した教育の中で、平和学習や英語教育など、特色ある北方町の教育を実施することができ、町としての魅力の高まりが期待できます。

●教育施設の整備・適正化

長期的、全目的に見て、適切な規模の教育施設の体制を整えることができるとともに、大規模改修や改築等により、教育施設の整備を進めることができます。また、南学園の中学生の通学距離が短くなります。

町民対話集会にて北方学園構想を説明しました

去る5月14日から17日まで、3会場にて開催された町民対話集会において、北方学園学校についてご説明させていただきました。会場では様々な意見や質問がありましたが、出席された方には北方学園構想に対し概ねご理解頂けたと思います。

●説明会での主な質疑応答

Q 中学校が2校になると部活動はどうなるのか

A 野球やサッカーなど、チーム人数が必要な部活に関しては、北学園と南学園で1つの部活を組織するなどに対応策があります。

Q 制服やランドセルなどの学用品はどうなるのか

A 今後の協議事項ですが、何年かは旧様式も利用可とするなど保護者の方に過重な負担とならないように配慮します。

※その他、詳しくは町ホームページのQ&Aコーナーをご覧ください。



▲対話集会での学園構想説明の様子

「北方学園構想」コーナー

学校区の方針が固まりました！

**北学園（仮称）は、北方小学校と北方西小学校の校区、
南学園（仮称）は、北方南小学校の校区となります。**



アンケート調査などでも特に保護者のみなさんの関心が高かった学校区の設定について、第2回学校構想検討委員会にて協議され、北学園は北方小と北方西小の校区、南学園は北方南小の校区とすることが望ましいとの結論が出されました。町としてもこの決定を尊重して今後の施設整備計画等を検討していく予定です。

第2回北方町学校構想検討委員会が開催されました

6月27日に第2回目の検討委員会が開催されました。会議では、アンケート調査（保護者・教職員分）の結果報告、学校区の設定、施設配置案と工事予定案についての協議が行われました。当日の主な意見は以下のとおりです。

なお、当日の配布資料等、詳しくは町ホームページでご確認いただけます。

※主要な意見

- 既存の学校の伝統や文化をうまく引き継いでいくためにも、今の学区を生かした方がよい。
- 単に人数のバランスだけで学校区は決められない。小中学校は「地域の学校」であり、自治会やPTAを分割するべきではない。
- 9年間を見通したカリキュラムに基づく教科担任制は、教員の指導力向上につながる。
- 保護者の間では、学用品などの金銭的な負担や部活動などへの不安が話題になっている。こまめな情報提供が望ましい。
- 北学園は1000人規模となる。大規模すぎないか。
⇒ 県の学校規模の指標では義務教育学校のめやすは18～27クラスとなっており、北学園も南学園も、ほぼこの範囲内となる見込みです。
- 事務局が示した仮設校舎を使わない工事計画案は、子どもたちへの影響が少なく、とても良い。



▲検討委員会の様子

豊葉の杜学園及び下総みどり学園を視察しました

6月21日～22日、義務教育学校の先進地視察として品川区立豊葉の杜学園及び成田市立下総みどり学園を訪問しました。児童生徒数は、豊葉の杜学園が920人、下総みどり学園は440人で、それぞれ北学園と南学園と同規模の学校です。

豊葉の杜学園は、都心の立地という条件の中、限られた狭い敷地内での学校改修工事に苦労されたようです。そのため、なるべく既存の校舎を活用して仮設校舎を極力使用しないようにし、工事期間を4年に分け少しずつ工事を行ったそうです。下総みどり学園は、5年生からほとんどの教科で教科担任制を導入しているほか、積極的な異学年交流、地域との交流活動を進めていることが特徴的でした。

今後の北方学園の建設から学校運営などについて大いに参考となりました。

広い廊下に各種展示スペースを設け、普通教室の壁はフルオープンになっていました。



▲下総みどり学園の様子

2018年9月号

北方学園構想コーナー

第3回学校構想検討委員会が開催されます

8月29日(水)に、第3回学校構想検討委員会が開催されます。検討委員会では、アンケート調査(一般分)の報告、北学園と南学園それぞれの施設配置方針が決定する予定です。

また、開校後の北方学園運営の根幹となる、教育方針について協議を行う予定です。なお、会議の詳細については広報10月号にてお知らせします。

☎ 教育委員会 学園構想推進室 ☎ 323-1115

2018年10月号

「北方学園構想」コーナー

第3回北方町学校構想検討委員会が開催されました

8月29日に第3回目の検討委員会が開催されました。会議では、アンケート調査(一般分)の結果報告、施設配置、学園の教育方針についての協議が行われました。

特に今回の主要な議題である、学園の教育方針について各委員からの活発な意見交換があり、北方学園をよりよい学校にするため、委員それぞれの立場や見識に基づいてたくさんの意見や思いが出されました。次回の検討委員会ではこれらの意見を集約・精査し、北方学園の基本的な教育方針に関して検討委員会としての考えを取りまとめる予定です。当日の主な意見は以下のとおりです。

なお、当日の配布資料等、詳しくは町ホームページでご確認いただけます。

※主要な意見

- 学園の教室配置に関しては、通学路や入り口の位置、校舎の昇降口の位置など、児童生徒や教員の動線を考慮して決定する必要がある。
- いじめや不登校への対応など、子どもが安心・安全に学べる環境を大切にすることを教育方針に盛り込みたい。
- 公立学校としては、「誰もが」安心して楽しく学べるようにすることが最も大切である。一部の子供だけでなく、「誰もが」ということが重要である。
- 多学年で構成される義務教育学校の制度を生かして、下級生は上級生を模範として学び、上級生は下級生を指導することで学び直したり、思いやりの心を涵養できたりするとよい。
- 学園が地域コミュニティの核となって、家庭や地域との連携をより深めていけるとよい。社会に開かれた学校にしたい。
- 幼稚園、保育園との連携、地元の岐阜農林高校などとの連携を大切にしたい。
- 特色ある教育(英語教育、ふるさと学習、平和学習など)を充実させるべき。
- 教科担任制や9年間を見通したカリキュラムの構築などを通して、教員も専門性を高めたり、資質向上を図ることができる学校となるとよい。



▲検討委員会 活発な意見交換の様子

☎ 教育委員会 学園構想推進室 ☎ 323-1115

「北方学園構想」コーナー

北方学園構想の趣旨について（教育的側面）

北方学園構想の取り組みに着手してから半年あまりが経過しました。アンケート調査などから様々なご意見や学校に望む声などをいただいています。今回は教育的側面から北方学園構想の趣旨について説明します。

●不登校やいじめなど、生徒指導上の問題の減少

現行の小中学校の仕組みでは、中学生になると、不登校や学習意欲の低下など、生徒指導上の問題が増加する傾向にあります。北方町でも、昨年度不登校については、小学校全体で5人に対し、中学校では18人と増加しています。北方学園構想により小中一貫の義務教育学校になることで、教職員の一人ひとりの子どもに対する理解や指導が、小学校6年生で途切れることなく、9年間を通して多くの教職員の視点から深めていくことができます。子どもにとっては、中学校でも自分のことをわかってくれている先生がいて安心できます。教員にとっては、小学校は6年間で送り出したら終わり、または中学校は3年間だけの責任ということではなく、全ての教員が15歳の卒業に責任を持つこととなります。このようなことから、生徒指導上の問題の減少につながることが期待できます。

●学力の向上

現行では、小学校6年生までは学級担任が全教科を指導し、中学校になると一気に教科担任制に変わる体制が基本です。しかし、北方学園構想では、小中学校の教員が1つの学校として1つの指導体制を組むことにより、徐々に教科担任制を取り入れることができ、専門性の高い授業を仕組むことができます。また、9年間を見通した指導計画を立てる中で、学習内容の先取りや学び直しを効果的に位置づけることもできます。このように義務教育学校のよさを生かして学力向上につながることが期待できます。

●指導体制の充実

北方町には現在、中学校が1校しかないため教員の町内異動ができず、継続して町内で勤務することができません。そのため、地域の事情やそれまでの指導の経緯をよく理解して指導にあたることのできる教員が少なかったり、北方町に在住しながら他市町で勤務している教員が多かったりします。北方学園構想では、中学校の課程が2校体制となり、教員の町内異動が可能となるとともに、中学校課程の教職員数の増加を見込むことができ、指導体制の充実を図ることができます。

●特色ある教育の推進

小中学校が1つの学校として、9年間の系統的な学習を行うことが可能となります。そこで、小中の一貫した英語のカリキュラムを実施したり、平和学習やふるさと学習を系統的に行ったりするなど、今後、社会で活躍する子どもたちに必要な力を確実に身につけるとともに、特色ある北方の教育を推進し、北方町の魅力を高めることにもつながります。



このような趣旨を踏まえて、北方学園構想では、だれもが安心して学び合える学校づくりをより推進することが最も大切であると考えています。地域に根ざした、地域に愛される学園となりますよう、みなさんのご理解ご協力をお願いいたします。

「北方学園構想」コーナー

第4回北方町学校構想検討委員会が開催されました



10月29日(月)に第4回目の検討委員会が開催されました。会議では、学園の教育方針、来年度以降の検討組織(案)、意見書の構成(案)などについての協議が行われました。

特に今回は、主要な議題である学園の教育方針について各委員からの活発な意見交換があり、北方学園をよりよい学校にするため、委員それぞれの立場や見識に基づいてたくさんの意見が出されました。協議の結果、北方学園の基本理念は「**だれもが安心して学び合える学園**」とすることが検討委員会の方針として決定されました。なお、当日の主な意見は以下のとおりです。

※当日の配布資料等、詳しくは町ホームページでご確認いただけます。

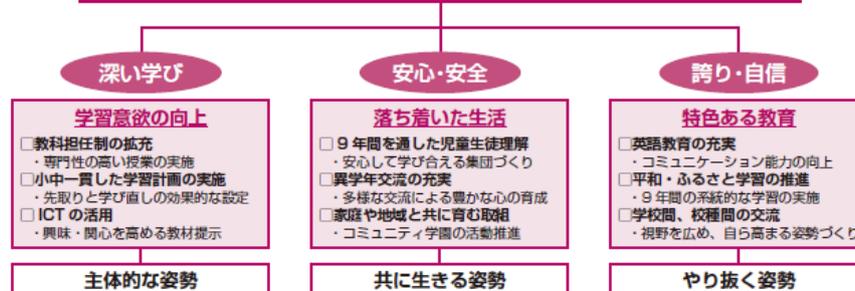
※**主要な意見**

- 安心して学校生活ができる環境がないと、子どもたちは「一生懸命」になれません。一生懸命になれることがかっこいいと思える学校にしたいので、「だれもが安心して学び合える」ことは一番大切だと思います。
- 小学生と中学生と一緒に生活できることで、小学生は中学生に憧れを持ち、中学生は小学生の良いお手本となるため、お互いに良い影響を与えて大変教育効果も上がると思います。
- 最近では小学6年生の学級経営がうまく行かない事例が多いようです。義務教育学校の制度にはこの問題解決に関してもメリットがあると思います。
- 全国的に小中一貫校の取り組みは、過疎化・少子化の対応策として採用されている場合が多いです。しかし、北方学園構想はそうではなく、義務教育の9年間に教員や地域ぐるみで子どもの成長や発達をしっかりと支えていこうとする取り組みです。小中連携は大切な課題であり、それに正面から取り組むこの構想は大変すばらしいと思います。
- 北学園と南学園という2つの学校ができるので、基本理念は同じでもそれぞれの事情や状況に合わせて独自の学校文化を創って欲しいです。お互いに切磋琢磨できる、良い意味でのライバル関係が築けると良いと思います。

北方学園の教育方針

【基本理念】

だれもが安心して学び合える学園



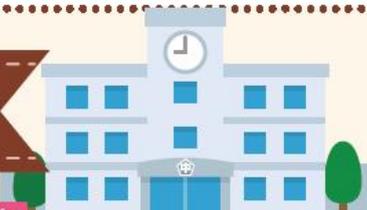
9年間を通して、「たくましい北方の子」を育む

(参考 北方学園教育方針の全体像)

☎ 教育委員会 学園構想推進室 ☎323-1115



「北方学園構想」について



●福井大学教育学部附属義務教育学校を視察しました

11月6日、義務教育学校の先進地視察として福井大学教育学部附属義務教育学校を訪問しました。児童生徒数は740人で、もともと同じ敷地内にあった附属小学校と附属中学校を統合して、平成29年度に開校されました。

学校の特色は「自主協同」の精神にのっとり、子どもたちの主体的な活動を展開しているところで、義務教育学校としてのよさを生かして、特に5年生から7年生までの学びのつながりを重視した指導を行っているとのことでした。また、もともと小学校と中学校の職員室が別々になっていたため、緊密な連携体制を目指して、現在、管理棟の新築工事を行っているところでした。

今後の北方学園の検討において、大いに参考になりました。



▲活発な授業の様子

●学園構想の説明会を実施しました

11月15日に北学園の近隣住民の方向け、12月13日には町PTA連合会にて学園構想の趣旨などについての説明会を実施しました。これは、今年2月の学校構想検討委員会の協議をまとめた意見書が提出される前に、今現在の協議内容や学園構想の趣旨を多くの皆さんにお伝えするとともに、様々なご意見を今後の参考にさせていただくために開催しました。

各会場では、北学園を分断する町道の取り扱いや住民への情報提供の方法などに関する意見が出されましたが、学園構想の趣旨に関しては概ねご理解を頂けました。今後も折に触れて、多くの皆さんに説明したりご意見をいただく場を設けたいと思います。

☎ 教育委員会 学園構想推進室 ☎ 323-1115

「北方学園構想」コーナー

第5回北方町学校構想検討委員会が開催されました



12月26日、第5回目の検討委員会が開催されました。会議では北方学園構想に関する意見書（案）に関する協議が行われました。また、11月に開催したPTA役員や教職員向けなどの説明会の報告もしました。当日の主な意見は以下のとおりです。

※当日の配布資料等、詳しくは町ホームページでご確認いただけます。

※主要な意見

- 北学園と南学園という2つの学校ができるので、基本理念は同じでもそれぞれの事情や状況に合わせて独自の学校文化を創ってほしい。それぞれの学校の特色や違いを前面に出して、北方学園としての幅を広げ、良い意味でのライバル関係が築けるとよい。
- 義務教育学校として、義務教育の9年間を小中学校の教員が協力し合って指導していくという意識が高まれば教育効果は大きい。
- 最近、町内に新築住宅が増えてきている。これは北方学園構想に期待されている部分も大きいと思う。今後も学園構想を通して大いに北方町をアピールできるとよい。
- 北方町ならではの特色ある教育に関して、英語教育の充実は重要である。
- 今後の具体的な協議を専門部会などで行っていく際には、事務局と教員の緊密な連携が大切である。特に距離的に離れている北方南小学校との連携に留意してほしい。
- 義務教育学校として新しく生まれた北方学園で、教員の指導力をより高めていくという視点も大切である。

「北方学園構想に関する意見書(案)」に対する意見募集について

学校構想検討委員会が策定する「北方学園構想に関する意見書(案)」について、意見を募集します。頂いたご意見は検討委員会での参考資料としてのみ活用し、ご意見以外の個人情報が公表されることはありません。なお、個々のご意見に対して直接回答はしませんので、あらかじめご了承ください。

- 募集期間 2月12日(火)まで(郵送の場合、当日消印有効)
- 閲覧場所 町ホームページ、北方町役場 教育委員会窓口
- 応募方法 「意見提出用紙」に、住所、氏名、連絡先を明記し、郵送、FAX、電子メール、のいずれかの方法で、北方町役場教育委員会までご提出ください。電話等、口頭によるご意見はご遠慮願います。なお、「意見提出用紙」は町ホームページから印刷いただくか、教育委員会窓口でお渡しできます。
- 提出先 北方町役場教育委員会
〒501-0492 北方町長谷川1丁目1番地
FAX : 058-323-3890 mail : kyouiku @ town.gifu-kitagata.lg.jp



☎ 教育委員会 学園構想推進室 ☎323-1115



